

283
31

水戸高等學校一覽

自大正十三年
至大正十四年

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

始





水戸高等學校一覽

目次

- 沿革略
- 水戸高等學校學則
- 細則
 - △生徒往心得要領
 - △生徒心得細則
 - △學級總代及副總代規程
 - △寄宿舍細則
 - △寄宿舍收容規程
 - △服裝規程
 - △校務分掌規程
 - △教授會規程

自大正十三年

一頁
 五頁
 一七頁
 一七頁
 一七頁
 一八頁
 一九頁
 二〇頁
 二一頁
 二四頁
 三〇頁

大正
 13. 7. 19
 寄贈

校
 寄贈本

△ 評議員會規程	三〇頁
△ 職員服務心得	三一頁
△ 文書處理細則	三三頁
△ 宿直規程	三五頁
△ 物品會計規程細則	三七頁
△ 圖書監守使用規程	四四頁
△ 圖書閱覽規程	四七頁
△ 警備規程	四九頁
○ 職員	五一頁
○ 生徒	六一頁
○ 生徒出身學校府縣別調	八七頁
○ 卒業生	九二頁
○ 大正十三年卒業生ノ狀況調	一〇五頁
○ 敷地建物略圖	

五大
18.7.81
圖書

○ 水戸高等學校校友會會則	一〇七頁
○ 水戸高等學校校友會會計規程	一一二頁
參 照	
○ 高等學校令(抄)	一一四頁
○ 高等學校規程(抄)	一一六頁
○ 文部省直轄諸學校官制(抄)	一一三頁
○ 文部省直轄諸學校長職務規程	一三二頁
○ 高等學校教員規程(抄)	一三四頁
○ 官立高等學校高等科入學者選拔試驗規程	一三九頁
○ 高等學校高等科入學資格試驗規程	一四二頁
○ 專門學校入學者檢定規程	一四三頁
○ 學生生徒兒童身體檢查規程(抄)	一四四頁
○ 發育概評決定標準(抄)	一四九頁

283-21

水戸高等學校一覽

自大正十三年
至大正十四年

四月十日
四月廿日
大正十一年

沿革略

大正八年

八月二十八日 内田信也氏本校創設費トシテ寄附金壹百萬圓(敷地價格ヲ含ム)ヲ政

府ニ完納ス

大正九年

四月十七日 勅令第百十號ヲ以テ本校ヲ設置セラレ同第百十一號ヲ以テ職員定員

ヲ定メラレ(校長一人、教授十六人、書記三人)

四月十九日 北海道帝國大學附屬大學豫科教授渡邊又次郎學校長ニ任セラル

四月二十日 文部省告示第百八十號ニ依リ事務所ヲ文部省内ニ置キ事務ヲ開始

八月二十五日 ス

六月一日 五月二十五日文部省告示第三百二十七號ニ依リ事務所ヲ茨城縣東茨

○ 文部省直轄諸學校生徒ノ學校長ノ許可ナクシテ受ケタル他
ノ直轄諸學校入學試驗無効ニ關スル規程

一五〇頁

城郡常磐村本校内ニ移ス

八月二十五日 本校學則ヲ制定シ同月諸細則ヲ制定ス、

九月一日 生徒二百人ノ入學ヲ許可シ同月六日授業ヲ開始ス

大正十年

三月三十日 勅令第五十號ヲ以テ本校職員定員ヲ増加セララル

(校長一人、教授二十三人、助教授一人、書記四人)

四月一日 學則中學年學期及休業日ニ關スル件並ニ授業料及寄宿料ニ關スル件ヲ改正ス

四月十六日 服裝規程ヲ改正ス

五月七日 評議員會規程ヲ改正ス

大正十一年

四月一日 學則中授業料及寄宿料ニ關スル件ヲ改正ス

四月十五日 勅令第二百四號ヲ以テ本校職員定員ヲ増加セララル

(校長一人、教授三十人、助教授五人、書記六人)

五月二十二日 寄宿舎收容規程ヲ改正ス

六月二十七日 校友會會則並ニ校友會會計規程ヲ改正ス

八月八日 圖書監守使用規程並ニ圖書閱覽規程ヲ制定ス

大正十二年

一月二十日 教育ニ關スル勅語謄本ヲ拜戴ス

一月三十日 天皇陛下 皇后陛下御眞影並ニ皇太子殿下ノ御影ヲ拜戴ス

三月十五日 第一回卒業生徒百二十五人ニ卒業證書ヲ授與ス

三月三十一日 職員服務心得ヲ改正ス

五月二十四日 學則中學業成績考查ニ關スル件ヲ改正ス

六月十日 本校落成記念式ヲ舉行シ文部大臣臨場セララル

十一月一日 校友會會則ヲ改正ス

大正十三年

一月三十日 警備規程ヲ制定ス

五月二十四日 校友會會則中改正ス

六月十七日 本學堂創立五十周年紀念式ノ文藝大會演藝大會ヲ行フ

五月二十四日 學堂中學部創立十周年紀念式ヲ行フ

三月二十一日 學堂體育會創立十周年紀念式ヲ行フ

三月十五日 第一回卒業生歸省二十正人ニ卒業證書ヲ發給ス

二月二十日 天皇陛下御幸ニ際シテ學堂職員等御禮ヲ呈ス

一月二十日 學堂職員等御禮ヲ呈ス

大正十二年 學堂職員等御禮ヲ呈ス

八月八日 國書院創立十周年紀念式ニ圖書圖書展覽ヲ開ス

六月二十七日 對社會團體及對社會會館演藝ヲ行フ

五月二十二日 海軍省演藝會場ニ於テ演藝ヲ行フ

四月十五日 學堂職員等御禮ヲ呈ス

(以上ハ本學堂職員等御禮ヲ呈ス)

水戸高等學校學則

第一章 總則

第一條 本校ハ大正七年勅令第三百八十九號高等學校令ニ依リ男子ノ高等普通教育ヲ完成シ特ニ國民道德ノ充實ニカムルヲ以テ目的トス

第二條 本校ノ學科ハ大正八年文部省令第八號高等學校規程所定ノ高等科文科及理科トス

第二章 學年學期及休業日

第三條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第四條 學年ヲ分チテ左ノ三學期トス

第一學期 四月一日ヨリ 八月三十一日マテ

第二學期 九月一日ヨリ 十二月三十一日マテ

第三學期 一月一日ヨリ 三月三十一日マテ

第五條 休業日左ノ如シ

日曜日
 大祭日
 春期休業 三月十六日ヨリ
 四月七日マデ
 夏期休業 七月十一日ヨリ
 九月十日マデ
 冬期休業 十二月二十五日ヨリ
 翌年一月七日マデ
 第六條 式日左ノ如シ
 入學式日
 創立記念日 (四月十七日)
 天長節祝日
 一月一日
 紀元節
 卒業式日

第三章 學科課程

第七條 文科及理科ハ之ヲ甲類及乙類ニ分ツ

甲類ハ英語ヲ第一外國語トシ獨語ヲ第二外國語トスルモノ乙類ハ獨語ヲ第一外國語トシ英語ヲ第二外國語トスルモノトス

第八條 文科甲類及乙類ノ各學年ノ學科課程及每週教授時數ハ左表ノ如シ

學科	第一學年		第二學年		第三學年	
	甲類	乙類	甲類	乙類	甲類	乙類
修身	一	一	一	一	一	一
國語及漢文	六	六	五	五	五	五
英語	九	(三)	八	(三)	八	(三)
獨語	(四)	一	(四)	一〇	(四)	一〇
歷史	三	三	五	五	四	四
地理	二	二				
哲學概説					三	
心理及論理			二	二	二	二
法制及經濟			二	二	二	二

數	三	三	三	三	三
自然科學	二	二	三	三	三
體操	三	三	三	三	三
計	CH119	CH111	CH119	CH111	CH119

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ便宜他ノ學科目ヲ課ス

第九條 理科甲類及乙類ノ各學年ノ學科課程及每週教授時數ハ左表ノ如シ

學科	第一學年		第二學年		第三學年	
	甲類	乙類	甲類	乙類	甲類	乙類
修身	一	一	一	一	一	一
國語及漢文	四	四	二	二	二	一
英語	八	(三)	六	(三)	六	(三)
獨語	(四)	10	(四)	九	(四)	九
數學	四	四	四	四	(三)四	(三)四
物理			三	三	講義三 實驗二	講義三 實驗二
化學			三	三	講義三 實驗二	講義三 實驗二

植物及動物	二	二	二	二	二	二	二	二	二
礦物及地質									
心理									
法制及經濟	二	二	二	二	二	二	二	二	二
圖書	二	二	二	二	二	二	二	二	二
體操	三	三	三	三	三	三	三	三	三
計	CH118	CH110	CH118	CH110	CH118	CH110	CH118	CH110	CH118

第三學年ニ於ケル數學〔二〕及圖書〔二〕ト植物及動物〔講義二實驗二〕トハ生徒ヲシテ其ノ一ヲ撰擇セシム

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ便宜他ノ學科目ヲ課ス

第四章 入學在學休學退學

第十條 入學ノ期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内トス

第十一條 第一學年ニ入學スルコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ體格檢査ニ合格シタル者ニ限ル

- 一 中學校第四學年ヲ修了シタル者
 - 二 高等學校尋常科ヲ修了シタル者
 - 三 高等學校高等科入學資格試験ニ合格シタル者
 - 四 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者
 - 五 文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シテ指定シタル者
 - 六 文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シテ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者
- 第十二條 入學志願者ハ本校ヨリ入學志願者名票ノ交付ヲ受ケ之ニ所要ノ事項ヲ記入シ檢定料金五圓及最近ノ撮影ニ係ル寫眞ヲ添ヘ指定ノ期日マテニ本校ニ差出スヘシ
- 第十三條 入學志願者ノ數募集人員ニ超過シタル時ハ選抜試験ヲ行ヒ入學者ヲ定ム選抜試験ノ程度及選抜ノ方法ハ大正八年文部省令第十四號官立高等學校高等科入學者選抜試験規程ニ依ル

- 第十四條 入學許可ノ通知ヲ受ケタル者ハ本校ヨリ交付スル學籍簿用紙ニ所要ノ記入ヲナシ入學資格證明書ニ入學料金參圓ヲ添ヘテ指定ノ期日マテニ本校ニ差出スヘシ
- 第十五條 生徒疾病又ハ事故ニヨリ授業ニ缺席スルトキハ當日ヨリ三日以内ニ其ノ旨届出ツヘシ
- 第十六條 生徒疾病又ハ事故ニヨリ三箇月以上出席スルコト能ハサル見込ノ者ハ事由ヲ具シテ當該學年間休學ヲ願出ツルコトヲ得
- 第十七條 生徒兵役ニ服スルカ爲ニ三箇月以上出席スルコト能ハサル見込ノ者ハ事由ヲ申告シテ服役中休學ノ取扱ヲ受クルコトヲ得
- 第十八條 休學シタル生徒ハ次學年ノ始メヨリ原級ニ復シテ修學スヘキモノトス但シ兵役ニ服シタル者ノ課業ニ就クヘキ時期ハ服役滿期後四週日以内トス
- 第十九條 生徒疾病又ハ事故ニヨリ退學セントスルトキハ事由ヲ具シテ其ノ旨願出ツヘシ

第二十條 生徒左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ諭旨シテ退學セシム

- 一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
- 二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
- 三 引續キ一箇年以上出席セサル者
- 四 正當ノ理由ナク引續キ一箇月以上出席セサル者
- 五 出席常ナラサル者

第二十一條 生徒左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ學籍ヲ除ク

- 一 授業料又ハ寄宿料ノ滞納十五日ニ及フ者
- 二 二箇年間同一學年ニ在リテ尙ホ進級又ハ卒業セサル者
- 三 第二十條ノ諭旨ノ後十五日ヲ經テ尙ホ手續ヲ了セサルモノ
- 四 第二十二條 一旦退學シタル者一箇年以内ニ再ヒ入學ヲ願出ツルトキハ第二學年以上ノ生徒タリシ者ニ限リ詮議ノ上原級ニ復學セシムルコトアルヘシ
- 五 第二十三條 生徒ノ入學及退學ニ關シテハ本章ニ定ムルモノノ外臨機ノ取扱ヲサス

コトアルヘシ

第五章 學業成績考查

第二十四條 生徒ノ學業成績ヲ考查センカ爲ニ各學期末ニ於テ各學科目ノ試験ヲ行フ但シ學科目ノ種類ニヨリ全部又ハ一部ノ試験ヲ行ハサルコトアルヘシ

第二十五條 生徒ノ學業成績ハ各學科目ノ學期評點及學年評點ヲ以テ之ヲ表示ス各學科目ノ學期評點ハ該學科目ノ學期試験及平素ノ成績並ニ勤惰ヲ參酌シテ之ヲ定ム

各學科目ノ學年評點ハ該學科目ノ各學期評點ヲ平均シテ之ヲ定ム

第二十六條 各學科目ノ評點ハ一百ヲ以テ滿點トス

第二十七條 試験ヲ缺キタル學科目ノ學期評點ハ該學期ニ於ケル平素ノ成績及勤惰ト他ノ學期ニ於ケル該科目ノ學期評點トヲ參酌シテ學年末ニ於テ之ヲ定ム但シ停學又ハ正當ト認メ難キ事由ノ爲ニ試験ヲ缺キタル學科目ノ學期評點ハ詮議ノ上之ヲ決定ス

第二十八條 各學科目ノ學年評點五十以上總科目ノ平均學年評點六十以上ヲ得タル者ハ之ヲ及第トシテ進級又ハ卒業セシメ然ラサル者ハ之ヲ落第トシテ原級ニ止ム但シ學年評點五十未滿ノ學科目二箇以內ヲ有スル者ハ平均學年評點佳良ニシテ特別ノ事情アリト認メタル場合ニ限り詮議ノ上之ヲ及第セシムルコトアルヘシ當該學年間ニ於ケル平素ノ勤惰、行狀及出席ノ情況等ニ依リテ學業成績ノ如何ニ拘ハラズ進級又ハ卒業セシメサルコトアルヘシ

第六章 授業料及寄宿料

第二十九條 授業料ハ一學年金五拾圓トス但シ大正九年及同十年入學ノ者ニ對シテハ金四拾圓トス

第三十條 授業料ハ各學期ニ於テ左記ノ如ク分納セシム

第一學期	大正九年及同十年入學者 金拾貳圓	大正十一年以降入學者 金拾五圓
第二學期	金拾六圓	金貳拾圓

第三學期 金拾貳圓 金拾五圓

授業料納付ノ期日ハ別ニ之ヲ定ム
第三十一條 授業料ハ兵役ノ爲ニ休學中ノ者ニ限り該學期ニ於テ徵收スヘキ分ヲ免除ス

第三十二條 一定ノ期日中ニ授業料ヲ納付セサル者ニ對シテハ之ヲ納付スルマテ授業ヲ停止ス

第三十三條 寄宿舎ニ於テ修學スル生徒ニ對シテハ授業料納付ト同一ノ日ヲ以テ左ノ寄宿料ヲ納付セシム

第一學期分	金四圓五拾錢
第二學期分	金 六 圓
第三學期分	金四圓五拾錢

寄宿料納付期日前ニ退舎シタル者及期日後ニ入舎シタル者ニ對シテハ當該學期分ノ月割額ヲ徵收ス

第七章 賞 罰

第三十四條 生徒ノ各學年ニ於ケル修學ノ狀況及其ノ結果ヲ考查シテ他ノ生徒ノ模範トナスヘキ者ハ適當ノ方法ニ依リ之ヲ表彰ス

第三十五條 生徒ニシテ其ノ本分ヲ缺キタル者アルトキハ其ノ輕重ニ從ヒ適宜之ヲ懲戒ス

懲戒ハ通常戒飭及停學ノ二種トシ本分ヲ缺クコトノ特ニ甚シキ者ハ之ヲ放校ニ處ス

第八章 寄宿及通學

第三十六條 生徒ハ特別ノ事情ニヨリ通學ノ許可ヲ得タル者ハ外本校ノ寄宿舎ニ於テ修學スヘキモノトス

第三十七條 通學生徒ニシテ宿所ヲ變更セントスルトキハ其ノ旨學校ニ届出ツヘシ
第三十八條 通學生徒ノ宿所ニシテ不適當ト認メタル場合ハ轉宿ヲ命ス

第九章 制服

第三十九條 生徒ハ本校所定ノ服裝ヲナスヘシ

新ニ入學シタル生徒ニ對シテハ入學後三十日間ハ前項ノ規定ヲ適用セズ

生徒心得要項

第一條 本校生徒ハ吾カ國體ト國民道德ノ精髓トヲ了得シテ校規ヲ嚴守シ教訓ヲ服膺シ智徳ヲ修練シ身體ヲ健全ニシ以テ國家カ要望スル有用ノ材タランコトヲ期ス

第二條 生徒ハ時勢ノ必要ニ鑑ミ特ニ左記ノ事項ニ就キテ最善ノ努力ヲナスヘシ

一 業務ヲ樂ミ責任ヲ重シ忠實恪勤ノ性格ヲ作ルコト

二 廉耻ヲ尙ヒ誘惑ヲ斥ケ堅固不拔ノ志操ヲ持スルコト

三 輕薄奢侈ノ傾向ヲ戒メ専ラ塾實質素ヲ旨トスルコト

四 自治獨創ノ習性ヲ養ヒ共同犧牲ノ精神ヲ發揮スルコト

生徒心得細則

第一條 生徒ハ本校職員ニ對シテハ勿論相互ニ敬禮スヘシ

第二條 生徒集會ヲ催サントスル時ハ豫メ訓務課ニ届出ツヘシ

第三條 生徒揭示ヲナサントスル時ハ豫メ訓務課ノ檢閲ヲ受クヘシ

第四條 教室ニ於テハ必ス脱帽シ靜肅ヲ旨トシ授業ノ始終ニハ教官ニ對シテ立禮ス

ヘシ

第五條 退學願休學願缺席届出等ハ學級主任ノ檢印ヲ經テ教務課ニ差出スヘシ

第六條 建物器具等ヲ毀損汚染シタルモノハ辨償セシム

第七條 風紀ヲ紊ス虞アル場所ニハ立入ルヘカラス

第八條 講堂其ノ他危險ノ恐レアル場所ニ於テ喫煙スヘカラス

學級總代及副總代規程

第一條 各學級ニ總代及副總代各一名ヲ置ク

第二條 學級總代及副總代ハ其ノ學級生徒ヲシテ互選セシメタル數名ノ候補者中ニ

選就キテ之ヲ命ジ其ノ任期ハ一學年間トス

第三條 學級總代ハ其ノ學級生徒ヲ代表シ該學級主任ノ指揮ノ下ニ校規命令ノ徹底

ニ努メ兼ネテ其ノ教室内ノ秩序及清潔ヲ保持スヘキモノトス

學級副總代ハ總代ヲ補助シ總代不在ノ時ハ之ヲ代理スルモノトス

第四條 學校長又ハ生徒監ニ於テ必要アリト認メタル場合ハ臨機學級總代ヲ召集ス

寄宿舎細則

第一條 寄宿舎ハ每學年ノ始業前三日ニ開キ其ノ終ニ閉ツ

第二條 各室人員ノ配當ハ生徒監之ヲ定ム

第三條 自修食事外出歸舎其ノ他ノ時限等ハ校長ノ承認ヲ經テ生徒監之ヲ定ム

第四條 舎生外出スル時ハ入口備付ノ姓名札ニ依リ其ノ在否ヲ明カニスヘシ

第五條 多出先ニ於テ病氣其ノ他事故ノ爲メ外泊シ又ハ歸舎時刻ニ遅刻シタル時ハ

其ノ行先ヨリ證明書ヲ得テ歸舎ノ際届書ニ添ヘテ差出スヘシ

第六條 歸舎時刻後外出セントスルモノハ訓務課ニ願出ツヘシ

第七條 病氣又ハ止ムヲ得サル事情アリテ外泊セントスル者ハ事由日限ヲ詳記シ訓

務課ニ願出ツヘシ

第八條 舍生病氣ニ罹リタル時ハ症狀ニヨリ下宿ヲ命スルコトアルヘシ

第九條 舍生ハ舍内ノ清潔及整頓ニ付各自其ノ責ニ任スヘキモノトス

第十條 舍生ニ達スル書留郵便物ニシテ受取證ヲ要スルモノ及電報ハ訓務課ヲ經由スルモノトス

第十一條 寄宿舎建物備品等ヲ毀損又ハ紛失セシ時ハ直ニ之ヲ届出テ辨償スヘシ

第十二條 舍生ハ舍生規約ヲ定メ學校長ノ許可ヲ得テ之ヲ實行スヘシ

寄宿舎收容規程

第一條 本校ニ校內寄宿舎及校外寄宿舎ヲ置ク

第二條 第一學年生徒ハ全部ヲ校內寄宿舎ニ收容ス

第三條 第二學年生徒ハ約九十名第三學年生徒ハ約四十名ヲ限リ校內寄宿舎ニ收容ス

第四條 校內寄宿舎タランコトヲ希望スル者カ前條ノ定員ヲ超過スル場合ハ抽籤其

他適當ノ方法ニヨリテ在舍生ヲ決定ス

第五條 前條ニヨリ校內寄宿舎タルコトヲ得サル生徒ハ自宅又ハ之ニ準スヘキ家ヨリ通學ノ許可ヲ得タル者ノ外總テ校外寄宿舎ニ收容ス但シ校外寄宿舎ノ完備セサル期間ニ限リ願ニヨリ本校ニ於テ適當ト認メタル他ノ宿所ヨリモ通學スルコトヲ得シム

第六條 校內寄宿舎ニ缺員ヲ生シタル場合ハ入舍申込ノ順位ニヨリ校外寄宿舎又ハ通學生ノ内ヨリ之ヲ補填ス

服裝規程

第一條 本校所定ノ服裝左ノ如シ

一 帽

正帽

製式 海軍形

品質 黒羅紗

帽章 金色六稜形

横章 白線(幅二分)二條

略帽

一 製式 縁三寸 高二寸五分

二 材料 本對河鉢巻黒布巾一寸五分

品質 麥藁葎 賦 賦

三 販學中、内、帽章並横章正帽ニ同シ

四 二對夏服 販學中ニ類員ノ主ニ、其合ハ入合申出、販學ニモ、對校清留主又ハ

五 製式 立襟背廣形

六 販學品質 藍鼠霜降リ小倉織、販學ノ別々、販、販用モ、販學又ハ、モイマ

七 販學鈕釦 金色、販、其、對校清留合ニ準、販、對長高留合、販、販

八 販正對 襟章ニ金色文字(文科ハL 理科ハS)セ、主、販ハ、自字又ハ、ニ準、ヘ、販、

九 三對冬服 販、ニ、販、

品質 紺色絨或ハ小倉織

製式 鈕釦及襟章ハ夏服ニ同シ

靴 黒皮製

必要ノ場合ニ於テ黒色羅紗ノ巻脚絆ヲモ着用セシム

第二條 左ノ場合ニハ必ス所定ノ服装ヲナスヘシ

一 儀式舉行ノ場合

二 授業ヲ受クル場合

三 特ニ學校ヨリ指定シタル場合

第三條 制服着用ノ期間左ノ如シ

一 夏服 五月十六日ヨリ十月十五日マテ

但シ新ニ入學シタル生徒ニ限リ五月一日ヨリ着用スルコトヲ得

二 冬服 十月十六日ヨリ翌年五月十五日マテ

夏服着用ノ期間ニ限リ儀式若クハ體操ノ授業ノ場合及特ニ指定シタル場合ノ外ハ

略帽ヲ着用スルコトヲ得

第四條 病氣其ノ他止ムヲ得サル事由ニ依リ制服ヲ着用スルコト能ハサル時ハ其ノ事由ヲ詳記シテ許可ヲ願出テ和服用許可證ヲ受クルニアラサレハ授業ヲ受クルコトヲ得ス

第五條 生徒外出ノ際ハ制服ヲ着用スヘシ若シ和服ヲ着用スル時ハ必ス制帽及袴ヲ着用スヘシ

(圖ハ略ス)

校務分掌規程

第一條 校務ヲ分チテ教育部及事務部トス

第二條 教育部ニ教頭ヲ置き教授中ヨリ之ヲ命シ
教頭ハ校長ノ指揮ヲ承ケ教育部ニ關スル事項ヲ監理ス

第三條 各學科ニ學科主任ヲ、各學級ニ學級主任ヲ置き教授中ヨリ之ヲ命シ其ノ任期ハ孰モ一學年間トス

第四條 學科主任ハ校長及教頭ノ指揮ヲ承ケ左ノ事項ヲ擔當ス

一 當該學科教授上ノ整理及統一ニ關スル事項

二 當該學科ニ屬スル備品ノ保管及消耗品ノ受拂ニ關スル事項

第五條 學級主任ハ校長及教頭ノ指揮ヲ承ケ左ノ事項ヲ擔當ス

一 擔任學級生徒ノ出缺、勤惰、學業、操行、健康等ニ關スル事項

二 擔任學級教室ノ整理及清潔ニ關スル事項

第六條 事務部ニ教務課、訓務課、圖書課、庶務課及ヒ會計課ヲ置キ事務ヲ分掌セ

シム

各課ニ課長ヲ置ク

教務課長、圖書課長、庶務課長ハ教授中ヨリ訓務課長ハ生徒監中ヨリ之ヲ命シ會計課長ハ會計主任ヲ以テ之ニ充ツ

第七條 教務課長、訓務課長、圖書課長ハ校長及教頭ノ指揮ヲ承ケ課務ヲ主掌ス
庶務課長、會計課長ハ校長ノ指揮ヲ承ケ課務ヲ主掌ス

第八條 各課員ハ課長ノ指揮ヲ承ケ課務ニ従事シ必要ニ應シ他課ノ事務ヲ補助ス

第九條 教務課ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル

- 一 學科課程、教官ノ擔任學科目及ヒ授業時數ニ關スル事項
- 二 教授要目及教科用圖書ニ關スル事項
- 三 教室及教授上ノ設備ニ關スル事項
- 四 學級編成ニ關スル事項
- 五 休業ニ關スル事項
- 六 試験、進級、卒業及成績證明ニ關スル事項
- 七 生徒ノ入學、退學、缺席等ニ關スル事項
- 八 生徒ノ學籍簿及出席簿ニ關スル事項
- 九 在學證明及兵役ニ關スル事項
- 十 卒業生ノ大學進入ニ關スル事項
- 十一 教官ノ會議ニ關スル事項

十二 參觀人ノ取扱ニ關スル事項

十三 以上ノ外教務ニ關スル一切ノ事項

第十條 訓務課ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル

- 一 生徒ノ訓育ニ關スル事項
- 二 生徒ノ操行及服裝ニ關スル事項
- 三 生徒ノ賞罰ニ關スル事項
- 四 生徒ノ身體検査ニ關スル事項
- 五 生徒ノ體育及運動ニ關スル事項
- 六 生徒ノ集會並ニ掲示ニ關スル事項
- 七 生徒ノ通學及宿所ニ關スル事項
- 八 生徒ノ入舍、退舍、外宿、旅行等ニ關スル事項
- 九 寄宿舎ノ設備、警衛及衛生ニ關スル事項
- 十 寄宿舎ノ炊事監督ニ關スル事項

十一 以上ノ外生徒及寄宿舍ニ關スル一切ノ事項

第十一條 圖書課ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル

- 一 圖書ノ整理及保管ニ關スル事項
 - 二 圖書ノ目錄ニ關スル事項
 - 三 圖書ノ貸付ニ關スル事項
 - 四 圖書ノ購入ニ關スル事項
 - 五 圖書印ノ保管ニ關スル事項
 - 六 書庫及閱覽室ニ關スル事項
 - 七 以上ノ外圖書ニ關スル一切ノ事項
- 第十二條 庶務課ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル
- 一 御眞影竝ニ勅語謄本ニ關スル事項
 - 二 職員ノ進退、身分竝ニ服務ニ關スル事項
 - 三 學校長ノ官印竝ニ校印ノ管守ニ關スル事項

四 儀式ニ關スル事項

五 規則ノ制定竝ニ變更ニ關スル事項

六 公文書ノ接受竝ニ發送ニ關スル事項

七 公文書ノ整理及保存ニ關スル事項

八 一覽、年報、統計及官報報告ニ關スル事項

九 寄附ニ關スル事項

十 宿直ニ關スル事項

十一 以上ノ外他課ニ屬セサル一切ノ事項

第十三條 會計課ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル

- 一 歳入歳出ノ豫算及決算ニ關スル事項
- 二 資金ニ關スル事項
- 三 官有財産及物品ニ關スル事項
- 四 土地及建物ニ關スル事項

五 會計検査ニ關スル事項

六 備人ニ關スル事項

七 校内ノ設備、警衛及衛生ニ關スル事項

八 以上ノ外會計ニ關スル一切ノ事項

第十四條 各課ノ分掌事務ニシテ他課ニ關スルモノハ合議ニヨリ之ヲ處理セシム

教授會規程

第一條 學校長ハ左ノ事項ニ關シ必要ト認メタルトキハ教授會ヲ開キ其意見ヲ徵ス

一 學科課程ニ關スル事項

二 試験ニ關スル事項

三 其他學校長ニ於テ生徒ノ教育上重要ト認メタル事項

第二條 教授會ハ教授ヲ以テ之ヲ組織ス但シ必要ノ場合ニ於テハ教授以外ノ職員ヲ

モ列席セシム

評議員會規程

第一條 本校ニ評議員五名ヲ置ク

第二條 評議員ハ教授ノ互選シタル者ニ就キ之ヲ命シ其任期ハ一學年間トス

第三條 學校長ニ於テ校務ニ關シ必要ト認メタルトキハ評議員會ヲ開キ其意見ヲ問

フ

第四條 評議員會ハ評議員ヲ以テ之ヲ組織ス但シ必要ノ場合ニ於テハ評議員以外ノ

職員ヲモ列席セシム

職員服務心得

第一條 新任者ハ直ニ着任及住所届書ヲ差出スヘキコト

第二條 氏名族籍若クハ住所ヲ變更シ其他身分ニ異動ヲ生シ其ノ事項ノ履歷上ニ關

係アルモノハ其都度届書ヲ差出スヘキコト

第三條 校務繁劇ノ場合又ハ上官ヨリ特ニ命セラレタルトキハ執務時間外又ハ休日

ト雖モ執務スヘキコト

第四條 病氣其他己ムヲ得サル事故ニ依リ缺勤又ハ遅刻スルトキハ事由ヲ具シ當日

午前八時以前ニ到達スル様書面ヲ以テ届出ツヘキコト若シ病氣ノ爲缺勤七日ヲ超
 ニルトキハ醫師ノ診断書ヲ添付スヘキコト

第五條 三大節、入學式、送別式、創立記念式其他臨時ニ舉行スル儀式又ハ特ニ登
 校スヘキ命ヲ受ケタル際病氣其他己ムヲ得サル事故ノ爲參列スル能ハサルトキハ
 事由ヲ具シ不參届書ヲ差出スヘキコト

第六條 三大節ニ高等官ヨリ奉呈スヘキ賀表ハ便宜上庶務課ヨリ之ヲ進達スルコト
 第七條 三大節ニハ「フロックコート」燕尾服又ハ紋付羽織袴「シルクハット」又ハ黒
 山高帽ヲ着用スヘキコト特ニ指定シタル場合亦同シ

第八條 出張ヲ命セラレタルトキハ出發及歸校ノ際届書ヲ差出シ且歸校後七日以內
 ニ復命書ヲ差出スヘキコト但簡單ナル事項ハ口頭ヲ以テ復命スルコトヲ得

第九條 父母ノ祭日ニ休暇スルノ必要アルトキハ前日中ニ届書ヲ差出スヘキコト
 第十條 服忌ヲ受クルトキハ其ノ親族關係ヲ記シ届書ヲ差出スヘキコト

第十一條 轉地療養、父母ノ病氣看護又ハ墓參ノ爲ニ賜暇ヲ請ヒ又ハ任地ヲ離レン

トスルトキハ豫定日數及行先地ヲ記シ書面ヲ以テ願出テ學校長ノ許可ヲ受クヘキ
 コト

第十二條 教官ニシテ休業中旅行セントスルトキハ豫定日數及行先地ヲ記シ其都度
 出發前書面ヲ以テ届出ツヘキコト

教官以外ノ職員ニシテ賜暇中旅行セントスルトキモ亦同シ

第十三條 本務以外ノ職務ニ従事セントスルトキハ報酬ノ有無ニ拘ラス學校長ノ許
 可ヲ受クヘキコト

第十四條 近火其ノ他非常ノ事故アルトキハ速ニ登校シ上官ノ指揮ヲ受クヘキコト
 但至急ヲ要スルトキハ當直員ト協議シ臨機ノ處置ヲナスヘキコト

文書處理細則

第一條 本校ニ到達シタル文書ハ凡テ庶務課ニ於テ之ヲ接受シ直ニ文書件名簿ニ其
 ノ件名及番號ヲ記シ文書ニ受付番號ヲ付シ主掌分課ニ配付シ取扱者ノ認印ヲ徴ス
 ヘシ但寄宿舎ニ宛テタルモノハ寄宿舎ニ親展書及私信ハ各名宛人ニ交付スルモノ

トス

二分課以上ニ關係アル文書ハ其ノ關係ノ重キニ從ヒ配付スヘシ書留ハ別ニ送付簿ニ記シ宛名人ノ認印ヲ徴スヘシ

第二條 文書ノ配付ヲ受ケタルトキハ各課ニ於テ遲滯ナク相當處理スヘシ

決裁済ノ文書ニシテ發送ヲ要スルモノハ淨書校合シ各課ニ備フル文書件名簿ニ依

リ番號ヲ付シ其ノ議案書ヲ添ヘ庶務課ニ送付スルモノトス

庶務課ハ直ニ發送ノ手續ヲ了シ議案書ヲ當該課ニ返付スヘシ

校長印及校印ハ庶務課書記之ヲ押捺スルモノトス

第三條 議案書ニハ關係書類ヲ悉ク添付シテ其ノ顛末ヲ知り易カラシムヘシ

第四條 完結シタル文書ハ關係各課ニ於テ整理シ必要ノ期間之ヲ該課ニ保存スルモ

前項ノ文書ハ關係各課ニ於テ保存スルノ要ナキニ至リタルトキハ之ヲ庶務課ニ引

繼クヘシ

宿直規程

第一條 宿直ハ庶務宿直及訓務室直トス

第二條 本校判任官以下一名宛輪番ニ庶務宿直ニ服スヘシ

訓務課ニ勤務ヲ命セラレタル者ハ訓務宿直ニ服スヘシ

第三條 當直者病氣又ハ自己ノ都合ニ依リ宿直スルコト能ハサルトキハ代人ヲ立ツ

ヘシ但シ特別ノ事由ニ依リ宿直ヲ免セラレタル者ハ此ノ限リニアラス

第四條 宿直時限ハ平日ニアリテハ當日退散時限ヨリ翌日出勤時限マテ休日ニアリ

テハ當日出勤時限ヨリ翌日出勤時限マテトス

第五條 當直者ニハ其前日マテニ庶務課ヨリ通知シ認印ヲ徴スヘシ

第六條 新任ノ者ハ着任ノ日ヨリ七日ヲ經テ宿直セシム

第七條 庶務宿直室ニ備フヘキ帳簿及器具等左ノ如シ

- 一 宿直名簿
- 二 宿直日誌

- 三 校務分掌規程
- 四 文書收受簿

- 五 文書交付簿
 - 六 印書及印箱
 - 七 職員住所簿
 - 八 郵便切手受拂簿
 - 九 公文書入
 - 十 電信用語符號表
 - 十一 郵便切手及端書
 - 十二 蠟燭燐寸受拂簿
 - 十三 生徒名簿
- 第八條 訓務宿直室ニ備フヘキ帳簿及器具等左ノ如シ
- 一 生徒名簿
 - 二 宿直名簿
 - 三 印箱
 - 四 宿直日誌
 - 五 文書交付簿
 - 六 文書入
 - 七 蠟燭燐寸受拂簿
- 第九條 宿直時間中ニ到達シタル文書及發送スヘキ文書ハ假ニ收受發送ノ手續ヲナシ翌日庶務課ニ引繼クヘシ
- 第十條 收受シタル文書中校長宛ノモノニシテ電報並至急ト表記シタル文書ハ直ニ

校長ニ送付シテ認印ヲ受ケ其他ノ文書ハ翌日庶務課ニ引繼クヘシ當日休日ナルトキハ次ノ宿直者ニ引繼クヘシ

他ノ職員ニ宛テタル文書ハ前項ニ準シ取扱フヘシ

第十一條 宿直中ニ起リタル事件ハ總テ其ノ顛末ヲ日誌ニ記載シ庶務宿直ニアリテハ庶務課ニ訓務宿直ニアリテハ訓務課ニ毎週一回提出シテ學校長ノ閱ニ供スヘシ

第十二條 宿直員ハ常ニ火ノ元其ノ他一般ノ取締ノ責ニ任シ日没後少クトモ二回校舎内外ヲ巡視シ小使ヲモ巡視セシムヘシ

第十三條 宿直中ニ郵便切手及蠟燭等受拂ヲナシタルトキハ其ノ都度受拂簿ニ記入スヘシ

物品會計規程細則

第一條 本校所屬物品ノ保管及出納ハ物品會計規則並文部省直轄各部物品會計規程ニ基キ此ノ細則ニ依リ處理スヘシ

第二條 物品ヲ大別シテ備品消耗品ニ分チ備品ノ用途ヲ專用共用ノ二種トス共用ト

ハ各課及特別教室ニ於テ共用スルモノヲ云ヒ專用トハ職員各自ニ專用スルモノヲ云フ

但シ備品消耗品ノ區別ハ其ノ性質及用法ニ依リ之ヲ定ム

第三條 各課及特別教室ニ物品監守者及物品取扱主任ヲ置キ物品ノ監守及取扱ノ責ニ任シ専用用品ニ就テハ專用者其ノ責ニ任セシム

但シ監守又ハ取扱ノ物品所屬區域ハ學校長之ヲ定ム

第四條 物品ノ出納ハ學校長ノ命令ニ依リ物品會計官吏之ヲ行フ

第五條 各課及特別教室ニ於テ所要ノ物品アルトキハ所定ノ物品請求用紙ニ品目數量所要ノ事由等ヲ詳記シ各主任者ノ檢印ヲ受ケ會計課ニ差出スヘシ但シ圖書ニアリテハ圖書課ニ請求スルモノトス

第六條 學術上機械ノ製作及修理ニ特殊ノ注意ヲ要スルカ又ハ當業者ヲ選擇スル必要アルモノハ圖案及仕様書又ハ便宜上各課及特別教室等ニ於テ當業者ノ見積書ヲ徴シ(外國製品等ニシテ見積書ヲ徴スル能ハサルトキハ之カ調書ヲ添付シ)會計課

ニ請求スヘシ

第七條 會計課及圖書課ニ於テ物品ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ圖書課ニ於テハ會計課ヲ經由シ物品會計官吏ヲ經テ學校長ニ提出シ受入及支給ノ命令ヲ受クヘシ

第八條 通常所用ノ物品ハ物品會計官吏ニ於テ一ケ年ノ所要高ヲ豫定シ學校長ノ許可ヲ受ケ一回若クハ數回ニ取纏メ購入ノ手續ヲ爲シ之ヲ倉庫ニ藏置シ各課及特別教室ノ請求ニ應ジ支給ノ手續ヲナスヘシ

第九條 生産又ハ寄贈ニ係ル物品ハ會計課ニ於テ其ノ品名數量及價格若クハ評價ヲ付シ藏置若クハ支給ノ手續ヲナスヘシ

第十條 物品會計官吏ニ於テ受入シタル物品ヲ支給セントスルトキハ番號ヲ現品ニ付シ共用品ト専用用品トニ別チ備品支給簿ニ登記シ消耗品ニアリテハ消耗品支給簿ニ登記シタル後之ヲ物品監守者又ハ物品取扱主任ニ配付シ受領ノ證トシテ帳簿ニ捺印セシメ若クハ別ニ領收證書ヲ徴スヘシ

第十一條 物品監守者又ハ物品取扱主任物品ヲ受領シタルトキハ直チニ備品監守簿
又ハ消耗品受拂簿ニ記帳スヘシ

第十二條 各課及特別教室ニ於テ不用ニ屬シタル物品アルトキハ物品監守者又ハ物
品取扱主任ハ速カニ物品會計官吏ニ返付ノ手續ヲナスヘシ

第十三條 物品會計官吏前條物品ノ返付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ將來使用ノ見
込アルモノハ保管ノ手續ヲナシ使用ノ見込ナシト認メタルモノハ處分案ヲ具シ學
校長ノ裁決ヲ請フヘシ

第十四條 物品ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ物品監守者其ノ事實ヲ詳記シ物品會計
官吏ヲ經テ學校長ニ申報スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ物品檢閲委員ノ合議ヲ經學校長ノ裁定ヲ得責任者ヲシテ之ヲ
修理セシメ又ハ代品若クハ相當代價ヲ辨償セシムルモノトス

第十五條 自然破毀ノ物品ニシテ修理ノ上使用ノ見込アルモノハ修理ヲ請求シ其ノ
見込ナキモノハ返付ノ手續ヲナスヘシ

第十六條 物品監守者又ハ物品取扱主任交代シタルトキハ前任者後任者立會ノ上引

繼ヲナシ備品監守簿又ハ消耗品受拂簿ニ受繼年月日ヲ記シ且ツ記名捺印スヘシ

第十七條 物品會計官吏ハ毎年一回以上各監守者並ニ物品取扱主任ニ就キ帳簿ト現
品ヲ對照査閲シ異狀ヲ認メタルトキハ學校長ニ申報シ其處分ヲ求ムルコトヲ得

第十八條 物品ノ出納ヲ明確ナラシムル爲メ物品會計官吏ハ左ノ帳簿ヲ設ケ之ヲ整
理スヘシ

- 一 普通備品出納簿
- 一 機械標本類出納簿
- 一 圖書出納簿
- 一 證票ニ基キ物品ノ出納ヲ記入シ在庫及共用物品ノ現在ヲ明ニス
- 一 消耗品出納簿
- 一 證票ニ基キ物品ノ出納ヲ記入シ在庫及消費高ヲ明ニス
- 一 備品支給簿

命令文書ニ基キ支給シタル物品ヲ記入シ物品會計官吏ト物品監守者又ハ專用者トノ受授ヲ明ニスルモノトス

一 消耗品支給簿

命令文書ニ基キ物品ヲ記入シ物品會計官吏ト物品取扱主任トノ受授ヲ明ニスルモノトス

第十九條 各課及各特別教室ニ於テハ備品監守簿、消耗品受拂簿及郵便切手受拂簿ヲ備ヘテ物品ノ現存及受拂ヲ明確ナラシムヘシ但シ圖書ハ原簿ヲ以テ本簿ニ代用スルコトヲ得

第二十條 學校長ハ物品檢閲ノ爲メ物品檢閲委員長一名委員若干名ヲ設ケ職員中ヨリ之ヲ命ス

物品檢閲委員長及委員ノ任期ハ一ケ年トス

第二十一條 檢閲ヲ分チテ定期及臨時ノ二トス

定期檢閲ハ毎年一回之ヲ施行シ臨時檢閲ハ必要ト認メタルトキ臨時ニ之ヲ施行ス

第二十二條 物品檢閲ノ時日ハ委員長之ヲ定メ豫メ各物品監守者及物品取扱主任ニ

通知スルモノトス但シ臨時ニ施行スルモノハ此ノ限ニアラス

第二十三條 物品檢閲委員ノ檢閲スヘキ要項左ノ如シ

一 物品保管ノ適否

一 物品亡失毀損ノ有無

一 物品ノ使用竝消費ノ適否

一 其ノ他必要ト認メタル事項

第二十四條 物品檢閲ノ際ハ在庫ノ物品ニ就テハ物品會計官吏又ハ代理者使用中ノ

物品ニ就テハ物品監守者又ハ物品取扱主任其ノ席ニ列シテ檢閲ヲ受クヘシ

第二十五條 物品檢閲委員ニ於テ檢閲上故障ナシト認ムルトキハ帳簿ニ捺印シテ之

ヲ證スヘシ若シ故障アルトキハ當該責任者ヨリ始末書ヲ差出サシメ處分了ルヲ俟

チテ前記ノ手續ヲナスヘシ

第二十六條 物品檢閲委員其ノ檢閲ヲ終リタルトキハ檢閲上ノ顛末及意見ヲ具シ委

員長ヲ經テ學校長ニ申報スヘシ
第二十七條 帳簿様式別記ノ通り相定ム

(帳簿様式ハ略ス)

圖書監守使用規程

第一條 本校ノ圖書ハ總テ之ヲ書庫ニ藏メ圖書課員之ヲ監守ス

第二條 學校長ニ於テ必要アリト認メタル場合ニ於テハ圖書ノ一部ヲ閱覽室、教官室、特別教室又ハ事務室ニ備付ク

圖書備付ニ關スル内規ハ別ニ之ヲ定ム

第三條 閱覽室及教官室備付ノ圖書ハ圖書課員直接ニ之ヲ監守シ特別教室及事務室備付ノ圖書ハ當該教室及事務室ノ主任者圖書課員ニ代リテ之カ監守ノ責ニ任ス

第四條 書庫ハ特別ノ事情ニヨリ圖書課員ノ承認ヲ得タル者ヲ除クノ外之ニ出入スルコトヲ得ス

但シ教官ハ課員ニ通告ノ上自由ニ出入スルコトヲ得

第五條 書庫ニ入りテ圖書ヲ檢索スル者ハ決シテ其ノ函架ノ順位ヲ亂スコトヲ得ス

第六條 職員及生徒ハ別ニ定ムル所ノ圖書閱覽規程ニヨリ各自ノ閱覽室ニ於テ所要ノ圖書ヲ閱覽スルコトヲ得

第七條 職員ニシテ自宅其他閱覽室以外ニ圖書ヲ携出シテ之ヲ閱覽セントスル時ハ總テ圖書借用ノ手續ヲナスヲ要ス

第八條 圖書ヲ借用セントスル時ハ一定ノ借用證用紙ニ圖書名、函號、番號、冊數並ニ返納豫定日ヲ記入シ之ヲ係員ニ差出スヘシ

第九條 貴重圖書辭書事彙新着雜誌並ニ整理未完ノ圖書ハ特別ノ理由ニヨリテ學校長ノ承認ヲ得タル場合ヲ除クノ外之ヲ借用スルコトヲ得ス

第十條 一時ニ借用シ得ヘキ圖書ハ教官ニ在リテハ七部十冊以内他ノ職員ニ在リテハ三部五冊以内トス

但シ同時ニ二種ノ學科ヲ擔當スル教官ニ在リテハ其ノ二倍マテヲ借用スルコトヲ得

第十一條 同一圖書ヲ引續キ借用シ得ヘキ期間ハ借用者自身ニ於テ出來得ル限り之

ヲ長カラサラシメンコトニ留意スルヲ要ス

第十二條 同一圖書ノ借用期間カ三箇月ノ長キニ達シタル時ハ閱了ノ如何ニ關セス

一先ツ之ヲ返納スヘシ

前項ノ圖書ニシテ其ノ際マテニ他ノ閱覽ヲ希望スル者ナキ場合ニ於テハ更ニ之ヲ

續借スルコトヲ得

第十三條 一時ニ借用シ得ヘキ圖書ノ部數又ハ返納期日ニ就キテ特別ノ取扱ヲ受ク

ルノ必要アル場合ニ於テハ其ノ都度理由ヲ具シテ學校長ノ承認ヲ受クルヲ要ス

第十四條 職員ハ自身ノ借用シタル圖書ヲ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス

第十五條 借用中ノ圖書ヲ紛失又ハ汚損シタル場合ハ同一ノ代品ヲ以テ之ヲ辨償セ

シメ又ハ之ヲ修理セシム

第十六條 職員ハ毎年七月五日マテニ借用シタル圖書ノ全部ヲ返納スヘシ

第十七條 閱覽室、教官室、特別教室及事務室備付ノ圖書ハ毎年一回七月十日ヲ以

テ之ヲ書庫ニ回收ス

第十八條 書庫ハ毎年夏季休業中ノカ整理ヲ行フ

書庫整理ノ際ハ圖書全部ト目錄又ハ圖書原簿トノ照合汚損圖書ノ修理又ハ廢棄紛失圖書ノ記錄及再調竝ニ曝書及消毒ヲ行フ

圖書閱覽規程

第一條 本校圖書館内ニ職員圖書閱覽室及生徒圖書閱覽室ヲ設ク

第二條 閱覽室ハ左記ノ日ヲ除クノ外毎日午前八時半ヨリ午後八時半マテ之ヲ開ク但シ臨時變更ノ場合ハ其ノ都度之ヲ公示ス

一 日曜日

一 祝日、祭日、式日

一 自三月十六日至四月五日

一 自七月十一日至九月五日

一 自十二月二十五日至一月五日

第三條 圖書ヲ閱覽セムトスルトキハ圖書目錄ニ就キテ所要ノ圖書ヲ檢索シ圖書課員ノ手ヲ經テ之ヲ借受ケ各自ノ閱覽室ニ於テ閱覽スヘシ但シ教官ハ書庫ニ入りテ自ラ圖書ヲ檢索スルコトヲ得

第四條 閱覽ノ爲ニ同時ニ借受クルヲ得ヘキ圖書ハ三部五冊以内トス但シ職員カ研究又ハ取調上必要アル場合ハ此ノ制限ヲ要セス

第五條 閱覽ヲ了リタル圖書ハ速ニ返納スヘシ

第六條 借受ケタル圖書ハ直接ニ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス

第七條 閱覽室備付ノ圖書ハ指定ノ位置ニ於テ自由ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第八條 圖書ハ閱覽室備付ノモノハ勿論自己ノ借受ケタルモノト雖モ總テ之ヲ館外ニ携出スルコトヲ得ス

第九條 生徒閱覽室ニ出入スルトキハ必ス入館票ヲ携帯シ在館中之ヲ係員ニ預置ク

ヘシ
入館票ハ各學年毎ニ之ヲ更訂シ圖書課ヲ經テ之ヲ生徒ニ交付ス

第十條 生徒閱覽室ニ於テハ左ノ條項ヲ確守スヘシ

- 一 制服着用若シクハ和服着袴ノコト
- 二 上草履使用又ハ跣足ノコト
- 三 音讀、談話、喫煙、組暴ノ動作等ヲ爲サ、ルコト

第十一條 閱覽中ノ圖書ヲ紛失又ハ汚損シタル場合ハ同一ノ代品ヲ以テ之ヲ辨償セシメ又ハ之ヲ修理セシム

第十二條 本規程ニ背戾シ又ハ係員ノ注意ニ應セサル時ハ事情ニヨリ期ヲ限リテ圖書ノ閱覽ヲ停止ス

警備規程

第一條 校内失火又ハ近火ノ際之ヲ認メタル者ハ直チニ非常號鐘ヲ以テ報シ退校後及夜間ハ特ニ寄宿寮及事務當直ニ知ラスヘシ

第二條 校内失火ノ際ハ職員以下現場ニ駆付ケ左ノ任務ニ従事スヘシ

- 一 非常信號 時鐘ヲ繼續亂打ス

二 報知 學校長、各課長、生徒監、警察署ニ報知スヘシ

三 消防 消防器、唧筒、其他適當ノ方法ニヨルヘシ

四 運搬 各室内非常持退ノ印アルモノ圖書、機械、標本等

五 警備 消防應援者ノ外妄リニ構内ニ入ラシメサルコト

搬出品ヲ監守スルコト

第三條 寄宿寮生ヲ以テ生徒消防隊ヲ編成シ役員部屬ハ學年ノ初ニ於テ生徒監之ヲ定ム

第四條 通學生ハ生徒消防隊ヲ援助シ臨機適當ノ任務ニ従事スヘシ

第十一條 消防隊員ノ選任ハ...

一 消防隊員ノ選任ハ...

二 消防隊員ノ選任ハ...

三 消防隊員ノ選任ハ...

四 消防隊員ノ選任ハ...

五 消防隊員ノ選任ハ...

職員

(大正十三年六月一日現在)

校長	渡邊 又次郎	文學士
漢文	村上 龍英	評議員
圖畫	池田 谷嘉吉	生徒監
英語、自然語	皆川 正禱	評議員
獨語	小牧 健夫	評議員
物理	四野 宮豊治	評議員
國語、自然語	栗原 武一郎	評議員
地理、歷史	西川 五郎	文學士
修身	岡村 喜代志	文學士
哲學概説、獨語	山田 伊三郎	文學士

獨	英語	文學士	生田沼	豐彦
歷	史	文學士	木宮	泰彦
英	植物、自然科學	文學士	吉田	良次
英	植物、自然科學	パチエラー オプアーツ	野原	茂六
英	語	文學士	久保	謙
英	動物、自然科學	文學士	佐藤	省吾
英	法制及經濟	文學士	菊川	池五
英	心理及論理	文學士	清水	谷隆寬
數	學	(主任)	長谷川	四郎
數	學	(在外研究中)	小野島	右左雄
數	學	文學士	內藤	又珍麿
數	學	文學士	相馬	良馬
歷史、漢文		文學士	桑田	六郎

化	學	理學士	倉橋	治助
獨	語	文學士	實吉	恭捷郎
心理及論理		文學士	市野	澤寅雄
化學、自然科學		理學士	岩	永山源作
國	語	文學士	宇野	親美
英	語	教師	(就職順)	
獨	語	パチエラー オプアーツ	シヨン	エフ
			ウキルヘルム	グンデルト
體	操	陸軍歩兵少佐	石川	銳二
體	操	陸軍歩兵少佐	多治	見國司
地質及鑛物		理學士	野村	正雄
劍	道		富樫	鐵次郎

柔道

獨賣及辯語

漢文

體操

助教

物理、數學

書記

岡野源次郎

文學士 大久保進一

文學士 伊藤法準

首藤直

橫澤忠雄

岡本耀

中川英一

樋口由之助

東郷整

橫地恭二郎

支那第一學年

支那第二學年

支那第三學年

支那第四學年

支那第五學年

支那第六學年

支那第七學年

支那第八學年

支那第九學年

支那第十學年

支那第十一學年

支那第十二學年

高山常雄

三村舉知

入佐文夫

長山辰美

永藤新吉

坂本喜兵衛

鳥羽田卓

朝野虎治

市川重定

山田心

千葉醫學士 大津寅

文科第三學年甲ノ一學級 教授 皆川正禧
 文科第三學年甲ノ二學級 政授 久保謙
 文科第三學年乙學級 教授 山田伊三郎
 理科第三學年甲學級 教授 內藤珍麿
 理科第三學年乙學級 教授 小牧健夫
 文科第二學年甲ノ一學級 教授 栗原武一郎
 文科第二學年甲ノ二學級 教授 佐藤省吾
 文科第二學年乙學級 教授 岡村喜代志
 理科第二學年甲學級 教授 四野宮豐治
 理科第二學年乙學級 教授 菊山池一
 文科第一學年甲ノ一學級 教授 吉田良次
 文科第一學年甲ノ二學級 教授 木宮泰彦
 文科第一學年乙學級 教授 西川五郎

理科第一學年甲學級
 理科第一學年乙學級
 教務課

教授 野原茂六
 教授 相馬良馬
 教授 村上龍英
 教授 生沼豐彦
 講師 岡野源次郎
 書記 東山郷整
 雇員 永藤新吉
 教授 吉田真次
 教授 池田嘉吉
 教授 生沼豐彦
 教授 岡村喜代志
 囑託 富樫鐵次郎

課長 訓務課
 (兼) 生徒徒監

生徒

(五十音順)

(大正十三年六月一日現在)

文科第三學年甲人一學級

(三十六人)

氏名ノ上段ハ出身學校名下段ハ本籍府縣名ノ略稱
◎印ハ學級總代○印ハ副總代

東京第四	青木 賴次	東京
水戸	雨谷 菊夫	茨城
千葉	伊藤 椒郎	千葉
太田	伊村 正祐	茨城
宇都宮	入江 信三郎	栃木
東京	上野 春雄	東京
成蹊	枝吉 卯之助	東京
早稲田	大場 千秋	北海道
錦城	大町 二郎	岡山

水戸	大森 精	茨城
開成	岡部 檀	東京
甲府	笠井 壽太郎	山梨
土浦	片岡 于治	茨城
白石	菅野 藏治	宮城
京華	菊池 政次郎	東京
小田原	小杉 德一郎	神奈川
正則	小林 健治	福島
第一橫濱	神下 壽雄	神奈川

品會指官由書別
同本一號

關	芝	大	開	東	第	東	石	關
成	成	成	成	京	二	京	川	京
佐伯義勝	酒井厚	斯波隆義	篠原東平	莊田武雄	竹内保高	長谷川幸三	萩原健雄	早崎文雄
富山	東京	東京	長野	岡山	神奈川	滋賀	福島	東京
愛知第一	伊丹嘉雄	宇都宮	相馬	明	錦	順	天王寺	土
平井正一郎	福島嘉雄	福田貞吉	伏見猛彌	宮川浪雄	八木光表	山中德二	橫田龍雄	吉田寅之助
岐阜	兵庫	栃木	福島	熊本	東京	東京	愛媛	茨城

文科第三學年甲人二學級

(三十七人)

東京第三	東京第四
板倉公	一毛正捷
千葉	東京
水海道	上
海老原登	遠藤恭介
茨城	長野

成	都	眞	東	磐	第	順	東	字	京	開	相	太
文	岡	城	京	城	一	天	京	都	北	成	馬	田
小野正	岡村周美	金成正彦	岡村周美	笠原昌滿	笠原昌滿	片柳真吉	北澤孝一	古口英男	小仁所彌太郎	嵯峨根辰彦	佐藤六一	齋藤進
茨城	和歌山	福島	和歌山	神奈川	神奈川	東京	東京	栃木	東京	京都	福島	茨城
成	大	開	眞	宇	第	芝	甲	水	栃	聖	高	水
城	成	成	開	都	二	開	府	戶	木	學	千	戶
笹本虎雄	關田生吉	關屋正雄	多田利男	田中慶吉	田中慶吉	直井泰祐	中尾武雄	中田昌	針谷恒治	平塚道雄	舟橋聖一	細田德壽
神奈川	高知	岐阜	福島	栃木	栃木	栃木	廣島	山梨	茨城	茨城	東京	茨城

開成	東京第四	長野	長野	早稻田	竹田	宇都宮	北海道	北	開成	第一橫濱	日	東京第四	成	東京第一	厚	開成	東京第一	厚
堀内政成	小幡治和	小川祐人	牛田彌六	岩下	石井敏三	五十嵐武	岩	松野義重	松尾武夫	杉浦博	河村秀世	木下	久保莊一	坂間孝司	比企野義五	比佐久馬	比企野義五	比企野義五
岩手	千葉	長野	山梨	大分	栃木	北海道	香川	滋賀	佐貫	愛知	兵庫	東京	東京	神奈川	神奈川	福島	神奈川	神奈川
第二橫濱	東京第一	早稻田	東京第四	東京第一	第一橫濱	開成	諏訪	京	京	磐城	宮城	宮城	東京	東京	神奈川	山口	神奈川	神奈川
三村武	小林敏雄	吉村榮吉	木下	河村秀世	笠川金作	岡崎英城	三澤清彦	村上	村上	古田巖	神奈川	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京
三村武	坂間孝司	吉村榮吉	木下	河村秀世	笠川金作	岡崎英城	三澤清彦	村上	村上	古田巖	神奈川	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京

文科第三學年乙學級

(三十七人)

東京高師附屬	開成	水戸	成	明	東京高師附屬	東京	太	成	第一橫濱	京	開成	厚	東京第一	厚	開成	東京第一	厚
芳賀	中村藤三	豐田利美	富山茂	塚谷精一	武田宣彦	關英夫	鈴木吉甫	鈴木太郎	杉田秀男	杉浦博	磐城	比企野義五	比佐久馬	坂間孝司	比企野義五	比佐久馬	比企野義五
福井	東京	茨城	栃木	東京	東京	香川	茨城	東京	神奈川	愛知	福島	福島	福島	神奈川	福島	福島	福島
東京第一	吉村成一	森田義衛	村田英彦	峰間信太郎	三澤清彦	目加田誠	前島正道	本間一郎	古田巖	古田巖	鳥取	鳥取	鳥取	神奈川	鳥取	鳥取	鳥取
東京第一	吉村成一	森田義衛	村田英彦	峰間信太郎	三澤清彦	目加田誠	前島正道	本間一郎	古田巖	古田巖	鳥取	鳥取	鳥取	神奈川	鳥取	鳥取	鳥取

理科第三學年甲學級

麻布	青木連次	東京
早稻田	淺井行男	東京
早稻田	飯田治躬	東京
水戸	飯田廣	茨城
東京第四	石黒龍雄	石川
麻布	臼井宏次	東京
水戸	大野定之	茨城
太田	岡部一雄	茨城
順天	岡本正	埼玉
錦城	加唐勝三	東京
開成	賀田終吉	山口

(三十七人)

堺	金田一雄	大阪
水戸	國井正	茨城
會津	黒河内秀臣	福島
開成	小島新吾	東京
高千穂	小島博	東京
東京第四	佐野鑑之	岡山
鶴岡	相良守次	山形
東京第四	櫻井芳人	三重
佐野	杉田辰男	栃木
磐城	高柳博明	福島
水戸	瀧本潔	茨城

理科第三學年乙學級

水戸	種子島秀彦	茨城
東京高師附屬	鶴岡鶴吉	千葉
錦城	中村清	鹿兒島
第二橫濱	中山三郎	神奈川
佐野	羽鳥庫次	栃木
東京第一	平野貞	岡山
土浦	星野武	茨城
第二橫濱	間宮五一	神奈川
成田	大島仁	千葉
下妻	大島光信	茨城
京北	大成龍雄	廣島

(三十一人)

順天	松本喜太郎	三重
海草	的場慎一	和歌山
水戸	柳川吾郎	茨城
長岡	柳下鋼造	新潟
土浦	湯原益治郎	茨城
水戸	吉田至	長野
開成	吉村辰夫	東京
獨逸協會	兼田三郎	青森
磐城	草野與平	福島
日本大學附屬	草間時定	東京

水戸	水戸	東京第四	木更津	太田	佐原	宇都宮	早稻田	攻玉社	學習院	明治	豆陽	水戸
黒澤辰男	小泉全道	酒井欣朗	篠原登	白石義男	須賀田謙次郎	菅又脩	田尻敢	田邊重樹	館内三郎	都築和雄	土屋久雄	角田種氏
茨城	茨城	東京	山梨	茨城	茨城	栃木	東京	滋賀	東京	愛知	静岡	茨城
東京	小田原	千葉 <small>(徳志)</small>	水戸	宇都宮	宇都宮	太田	東京第四	東京第一	下妻	安積	東京第一	
滑川嘉一	西海芳郎	畑中彦三	濱田成義	半田國胤	福田金三郎	本問操	萬澤遼	望月勝海	谷島悟郎	山邊榮之助	湯川茂雄	
茨城	神奈川	埼玉	茨城	栃木	栃木	茨城	熊本	静岡	茨城	福島	東京	

文科第二學年甲ノ一學級
(三十九人)

喜多方	相馬	大成	日本大學中學	成城	宇都宮	東京第四	宇都宮	開成	東京第一	水戸
安部慎一	荒井正巳	市原泰二郎	内田英二	大久保清次	大塚辰雄	大原寛	加藤静夫	加藤武	梶浦俊夫	川崎勝世
福島	福島	千葉	茨城	東京	栃木	東京	栃木	富山	愛知	茨城
明治	錦城	東京第四	水戸	眞岡	千葉	安房	麻布	栃木 <small>(檢定)</small>	甲稻田	京華
川手謙二	木村秀崇	軍司武	笹島菊次郎	篠崎武雄	鈴木斗人	須藤文雄	田中勝介	田中盈	高杉信	高橋茂
東京	宮城	茨城	茨城	栃木	千葉	千葉	東京	山口	青森	福島

高千穂	高洲紀雄	東京	水戸	楯石民雄	茨城	宇都宮	手塚源夫	栃木	東京第一	中川晃成	新潟	麻布	成島英美	山梨	麻布	丹羽喬四郎	東京	水戸	西川實	茨城	樺太	乘富丈夫	福岡	東京第三	濱彌太郎	茨城	栃木	安達平八郎	栃木	錦城	井田實	東京
東京第四	阪勘造	愛知	東京第四	土方定一	愛知	早稲田	藤岡雄二	東京	佐倉	松沼平八郎	千葉	横須賀	松本乃武雄	東京	開成	三浦義文	東京	前橋	柳井堯夫	群馬	東京第二	山崎常盤	東京	横須賀	石渡健吉	神奈川	水戸	池田政彦	鹿兒島	横須賀	石渡健吉	神奈川

文科第二學年甲ノ二學級

(三十七人)

都留	岩佐英山	山梨	開成	内田弘文	東京	東京第一	小畑年太郎	東京	東京第一	小貫頼慶	秋田	大田原	大島清七	栃木	土浦	大塚讓三郎	茨城	開成	加藤寛一	東京	錦城	加藤雅吉	千葉	芝城	梶圭之介	東京	千葉	金子利一	千葉	水戸	神永三千三	茨城	東京第四	川崎真次郎	東京	栃木	吉光寺秀夫	栃木
水戸	小泉安男	茨城	第一横濱	小島一雄	愛知	第一神戸	小林剛	茨城	栃木	鹽澤信濃	栃木	逗子開成	鈴木實之介	東京	東京第一	田中陽太郎	東京	龍ヶ崎	高橋威夫	茨城	宇都宮	谷口昇	栃木	大多喜	鶴岡隆	千葉	下妻	鶴見誠	茨城	高崎	戸塚仁一	群馬	東京第一	鳥山勝	東京	高輪	長谷川孝	東京

東京第四	馬淵威雄	兵庫	明治	宮崎	浩	東京
早稻田	松本孝四郎	東京	佐渡	吉澤孝治郎	新潟	
麻布	丸山眞壽夫	山梨	横須賀	若命善衛	神奈川	
厚木	三樹量平	神奈川				
文科第二學年乙學級						
喜多方	伊關慶一	福島	豊橋	大谷道雄	愛知	
小田原	伊藤鶴治	神奈川	高子穗	加藤英雄	東京	
横手	石田和一郎	秋田	大成	貝山晋	宮城	
東京第一	出永太郎	東京	麻布	片山巍	東京	
太田	稻田善夫	茨城	水戸	川又勇三郎	茨城	
眞岡	枝源市	茨城	熊谷	河端丙馬	埼玉	
水戸	海老澤勉雄	茨城	東京第一	北村郁三郎	東京	

大村	久保義之	長崎	東京高師附屬	武井禮介	愛媛
東京高師附屬	小池辰雄	東京	第二横濱	戸部幾三	神奈川
太田	小林繁次郎	茨城	部文館	苦米地俊之	長野
名教	小林二郎	山梨	下妻	鳩貝榮一郎	茨城
田邊	小早川美樹	和歌山	水戸	平山久	千葉
東京第二	齋藤大助	東京	第二横濱	間宮禎一	神奈川
麻布	島田保忠	兵庫	麻布	松壽誠廉	東京
佐野	須永正雄	栃木	日本	松本金壽	栃木
平壤	鈴木沙奈夫	千葉	鎌谷	南與之	埼玉
攻玉社	住吉他人登	廣島	早稻田	村井勇吾	東京
柏壁	關信美	埼玉	曉星	矢野二郎	奈良
逗子開成	高橋良助	神奈川	東京第一	山田五郎	富山
青森	武井一雄	大阪	東京第一	横山靖	高知

理科第二學年甲學級

(三十八人)

水海道	荒井力	茨城	今治	河上繁雄	愛媛
東京高師附屬	安東新午	東京	太田	木村順	茨城
東京第三	伊東菊郎	東京	水戸	國分一孝	茨城
太田	伊藤正誼	茨城	土浦	佐久間文忠	福島
水戸	乾詮七郎	茨城	東京高師附屬	佐竹義利	東京
仙臺第一	今川三郎	茨城	海城	篠島直雄	東京
栃木	岩間旭	東京	栃木	白石孝次	栃木
水戸	潮田勝一	茨城	東京第四	新莊彥三	東京
水戸	海野國壽	茨城	京華	須藤成一郎	東京
第一橫濱	大川博雄	長野	佐原	須之内文雄	茨城
水戸	片岡洛三	茨城	早稻田	杉	東京

理科第二學年乙學級

(四十三人)

水戸	鈴木菊男	茨城	水戸	濱田成達	茨城
東京	芹澤孝三	東京	札幌第二	逸見行雄	北海道
正則	玉置巖	東京	菲山	保土田春雄	靜岡
青山學院	團勝磨	東京	水海道	堀越二郎	茨城
水戸	千葉公雄	茨城	東京高師附屬	増澤五六	東京
開成	谷村義一	東京	東京第三	松尾琢之	兵庫
村上	富樫文也	新潟	宇部宮	山縣東一	栃木
芝	萩原康雄	山梨	第一橫濱	横山哲雄	神奈川
磐城	秋元孝亮	福島	東京第一	井村恒郎	茨城
水戸	青木伸	茨城	立教	飯田利雄	東京
木更津	有原康次	千葉	麻布	生尾次郎	東京

安房	石井泰藏	千葉	下妻	國府田次郎	茨城
佐原	磯山義	茨城	太田	近藤富三郎	群馬
佐渡	今井霸太郎	新潟	高京高師附屬	近藤駿四郎	愛知
成城	入澤廉	鳥取	磐城	鈴木巖	福島
水戸	小蘭江達雄	茨城	水戸	瀧田健次郎	茨城
水海道	大久保敬三	茨城	慶應	竹若筑紫	福岡
成東	大野俊雄	千葉	川越	谷島辰男	埼玉
水戸	大森喜久	茨城	東京第一	土屋真	東京
豆陽	岡村信吉	千葉	東京第四	中井潔夫	島根
佐倉	岡谷勤	千葉	水海道	中村薰	茨城
水戸	金澤要	茨城	前橋	長畑壽賀雄	群馬
明治	倉田軍一	山口	水戸	仁平弘夫	茨城
佐倉	倉田宣威	千葉	明治	西村東作	山口

第一橫濱(倉)	長谷川軍平	群馬	東京第一	丸山文雄	東京
水戸	林光一	岐阜	水更津	宗政四郎	千葉
水戸	藤卷肇	山梨	佐野	矢部要三	栃木
堺	藤村紫郎	京都	水戸	柳橋實	茨城
佐原	古橋千代曾	千葉	麻布	吉川廣一	東京
磐城	堀三男	福島			

文科第一學年甲ノ一學級
(四十一人)

大町	伊藤政雄	長野	開成	小原靜夫	新潟
字都宮	池野清躬	栃木	一關	及川盛雄	岩手
名教	石岡富七	山形	石川	大木勳	福島
明治	糸賀悌治	東京	高松	大橋壽	香川
成東	小川治夫	千葉	字都宮	岡田浩治	栃木

開成	開成	開成	水戸	明治	水戸	烏山	水戸	東京第四	早稻田	宇都宮	宇都宮	東京第四	大正
加藤武雄	河原武	木村直義	國澤正之	小坪洋	五味淵壽	柴田秀次	所澤義夫	杉江忠男	杉江榮	鈴木允	關谷清	鮮干鉉	朝鮮
東京	栃木	茨城	高知	茨城	栃木	茨城	長野	東京	東京	栃木	山口		
新湯	水戸	水海道	水海道	下妻	第二橫濱	錦城	東京第五	水戸	大多喜	錦城	麻布		
田村基一	高丸登	富澤隆一郎	中島盛三	林日魯司	原憲	半田不二夫	日比野七郎	藤咲博	藤平廣吉	藤本重一	增井經夫		
新湯	茨城	茨城	茨城	茨城	鳥取	神奈川	栃木	茨城	千葉	茨城	東京		

第二橫濱	東京第四	宇都宮	東京第四	東京高師附屬	東京第四	和歌山	正則	麻布	粕壁
三浦利定	雨宮平八	新江泰	伊藤興三	伊藤良香	飯塚俊雄	梅崎秀雄	小花和武夫	門井一郎	埼玉
神奈川	山梨	栃木	東京	岐阜	福島	東京	東京		
東京第一	東京第一	東京第一	第一橫濱	盛岡	東京高師附屬	前橋	佐倉		
山根勝亮	神田源三	川口正	木村源四郎	工藤征一	兒島英二	齋藤延雄	澤井丈雄	杉浦勝郎	東京
東京	山口	東京	神奈川	東京	岡山	群馬	千葉		

文科第一學年甲ノ二學級

(四十人)

相馬	鈴木健藏	福島	水戸	萩谷健彦	茨城
木更津	鈴木幸千葉	千葉	士浦	塙豊比古	茨城
盛岡	關市昌岩手	岩手	眞岡	平井淺四郎	栃木
土浦	田上元徳	茨城	東京第四	平野亮一郎	長野
海城	田爪英雄	東京	海城	布施榮三郎	茨城
水戸	田土部勝徳	茨城	函館	前田滋	北海道
佐野	田村啓七	栃木	磐城	諸橋敬一郎	福島
磐城	千葉成夫	福島	水戸	山越滋	長野
村上	中村善一	新潟	東京第四	山中章	山梨
字都宮	永島寛一	栃木	第一横濱	山本清	神奈川
東京第五	新井田秀松	北海道	東京第四	吉村七郎	東京
八戸	西村平八郎	青森	小倉	若林秀一	福井

文科第一學年乙學級

天王寺	安中琮一郎	群馬	東京第四	加藤子	萬壽男	東京
東京第四	青木金三郎	東京	東京第五	久保舜一		東京
水戸	秋山照	茨城	相馬	草野千里		福島
水海道	新井武男	茨城	千葉	國松孝二		千葉
太田	井坂良知	茨城	栃木	兒矢野元		茨城
土浦	石引正美	茨城	東京第一	清水重義		東京
麻布	江見千尋	新潟	東京第四	下田詮		東京
水戸	岡部巖夫	茨城	第一横濱	新保健二		神奈川
水戸	加倉井肅之	茨城	都留	鈴木金吾		山梨
水戸	加藤清	茨城	水戸	鈴木重喜		茨城
烏山	加藤實	栃木	飯田	關島久雄		長野

(四十人)

東京第四	園田義道	愛知	第一橫濱	増田弘	神奈川
麻布	田中駿三	佐賀	東京第二	松井豊	岐阜
長府	田中隆泰	山口	明治	松岡俊章	東京
宇都宮	仲山清	栃木	豆陽	松木建三	静岡
麻布	二宮尊基	東京	東京第四	松山史郎	滋賀
龍ヶ崎	沼崎迪	茨城	育英	安井勝太郎	群馬
海城	花澤亮一	千葉	京華	山香丈夫	廣島
早稻田	林通雄	宮城	水戸	若松光英	茨城
札幌第二	眞柄彌壽夫	福井	攻玉社 (檢定)	渡貫約	茨城
成蹊	淺羽三郎	東京	水戸	荒川恭三	茨城
東京高師附屬	相島敏夫	東京	開成	飯島金藏	東京

理科第一學年甲學級

(四十人)

水戸	石川正文	山形	東京第四	佐野章二	岡山
太田	石川義次	栃木	東京第一	清水四郎	東京
水海道	稻葉三男	茨城	東京第四	末次幸雄	佐賀
木更津	岩崎宏	千葉	開成	杉野榮二	東京
水戸	小貫道世	茨城	函館	田野孝三	北海道
東京第四	岡田秀夫	大阪	千葉	高橋武夫	千葉
水戸	寛武夫	茨城	長生	土田恂一	千葉
京華	河合健次	東京	成東	土屋忠光	千葉
第二橫濱	木島平八郎	神奈川	上田	寺田智	長野
安積	歸山亮	福井	早稻田	時野谷暢	茨城
水戸	小澤俊夫	茨城	東京第四	利根忠義	東京
栃木	小島君一	栃木	佐倉	西郡久之助	千葉
水戸	後藤勝三	茨城	土浦	福田泰一	東京

相馬	福原正	福島
東京第四	細見尙雄	東京
第二橫濱	間宮清二	神奈川
大田原	益子幾造	栃木
開成	山岡包郎	三重

理科第一學年乙學級

獨逸協會	足立德	東京
土浦	井川俊一	茨城
千葉	伊藤卓三	千葉
水戸	飯野澄	茨城
小田原	石井昇平	神奈川
土浦	岩瀨真一郎	茨城

水戸	山住嘉宣	茨城
第一橫濱	山本唯介	神奈川
開成	山脇真橘	大阪
第一橫濱	橫山尊雄	神奈川
石川	渡邊寛次	福島

(四十人)

大多喜	尾本勝司	千葉
水戸	大貫義隆	茨城
都文館	大森加以知	茨城
佐倉	岡谷勝利	千葉
東京第一	加瀬功	千葉
川越	金子正信	埼玉

千葉	金坂喜男	千葉
大成	幸治敏	千葉
烏山	佐藤昇	栃木
安積	酒井講和	福島
相馬	坂本麟平	福島
成東	篠口捷四郎	千葉
東京第五	島田美夫	福井
東京高師附屬	島田吉英	福井
東京第四	所澤政夫	長野
水戸	住吉勝也	北海道
上田	世木茂	山口
字都宮	田野邊富藏	栃木
水戸	高橋龍起	茨城

水戸	飛田義之介	茨城
水戸	富田恭	茨城
宇都宮	沼尾義精	栃木
佐原	野平藤雄	千葉
東京	畑勳	東京
水戸	林薰	埼玉
千葉	藤井謙二	廣島
木更津	藤代善次郎	千葉
高輪	古澤省三	茨城
村上	細野佑一	新潟
磐城	正木信功	福島
東京高師附屬	三宅仁	東京
水戸	山本信英	茨城

生徒出身學校府縣別調

東京										道北海			縣道府
正開	東京	東京	東京	東京	東京	學	東京	計	北	函	札	出身	
則成	第五	第四	第三	第二	第一	習	高師		海	館	幌	學校	
一	七	四	一	八	一	六	六	三	二	一	學	第一	
一	五		八	三	二	一	三	一		一	學	第二	
一	一	六	一	二		六	一	一			學	第三	
三	二	八	四	三	八	五	三	二	五	一	計		
東京										縣道府			
京	大	立	京	成	麻	早	獨	東	順	日	郁	攻	錦
北	成	教	華	城	布	田	稻	會	京	天	本	館	社
	二		二		五	三	一	一			一	一	二
	一	一	二	二	九	五		一		一	一	一	三
四	二		一	三	三	六	一	四	四	一	一	一	四
四	五	一	五	五	一	七	四	二	六	四	二	三	九

東京										縣道府			
正開	東京	東京	東京	東京	東京	學	東京	計	北	函	札	出身	
則成	第五	第四	第三	第二	第一	習	高師		海	館	幌	學校	
一	七	四	一	八	一	六	六	三	二	一	學	第一	
一	五		八	三	二	一	三	一		一	學	第二	
一	一	六	一	二		六	一	一			學	第三	
三	二	八	四	三	八	五	三	二	五	一	計		
東京										縣道府			
京	大	立	京	成	麻	早	獨	東	順	日	郁	攻	錦
北	成	教	華	城	布	田	稻	會	京	天	本	館	社
	二		二		五	三	一	一			一	一	二
	一	一	二	二	九	五		一		一	一	一	三
四	二		一	三	三	六	一	四	四	一	一	一	四
四	五	一	五	五	一	七	四	二	六	四	二	三	九

眞岡湯淺直己東京長岡苦菜三郎千葉

千葉					群馬			埼玉											
成	安	木	成	大	計	太	高	前	計	柏	川	熊							
田	房	津	東	喜									田	崎	橋	壁	谷	越	
一	二	六	五	三	六	二	一	三	六	二	二	二							
一	二	一	一	三	四	一	一	二	四	一	一	二							
一	一	一		二															
二	三	二	三	一	二	一	一		二	一	一								
三	三	二	三	一	二	一	一		二	一	一								
五	三	二	三	一															
九	五	三	六	五	九	六	二	一	三	六	二	二							
栃木					茨城				千葉										
計	烏	大	栃	佐	眞	字	計	水	龍	太	下	土	水	計	長	大			
																	山	原	木
一	三	二	三	一	二	九	四	三	四	一	一	一	七	二	九	一	九	一	一
一	六	一	六	二	二	五	四	一	四	一	四	三	二	二	七	一	五	一	一
一	三		一	二	二	八	二	九	一	六	二	四	一	六	六				
四	九	三	三	一	五	六	二	一	三	九	二	一	六	三	七	二	四	〇	

大阪			東京												
計	岸	天	計	慶	青	名	日	成	明	高	聖	高	芝	海	曉
一	一	一	七	一	一	一	一	三	一	一	三	一	三	一	一
一	一	一	八	一	一	一	一	四	二	一	二	一	二	一	一
三	一	一	八	一	一	一	二	三	二	一	二	一	二	一	一
五	一	二	八	一	二	二	二	三	〇	四	一	二	四	四	一
新			長		兵		川								
計	村	佐	計	伊	第	計	返	横	厚	小	第	第			
													上	渡	岡
四	二	一	四	一	一	一	一	一	一	一	四	六			
三	一	二	一	一	一	一	二	三	一	一	二	四			
一		一	一	一	一	一		二	二	五	四				
八	三	二	一	二	一	三	三	三	三	一	一	四			

山和歌			山口		鳥取	秋田	山形
計	海田和	歌	計	長岩	青	橫	鶴
	草邊山		府國	英	手	岡	
一	一		一	一	一		
一	一					一	
一	一		一	一			一
三	一	一	二	一	一	一	一

合	朝鮮	樺太	臺灣	大分	福岡	愛媛	香川
計	平	樺	臺	竹	小	今	高
	壤	太	北	田	倉	治	松
二〇一					一		一
一九七	一	一				一	
一七八			一	一			
一五七	一	一	一	一	一	一	一
一七六	一	一	一	一	一	一	一

長野				山梨		静岡			愛知	
計	諏飯上長	大		計	都甲	計	豆菲	計	豊	愛知
	訪田田野町				留府		陽山		橋	第一
四	一	二	一	一	一	一	一			
				一	一	二	一	一	一	一
四	一	一	二	二	二	一	一		一	一
八	一	一	三	二	一	四	二	四	三	一

青森	岩手		福島					宮城		
計	八青	計	一盛	計	石喜會相磐安	計	白	仙臺		
	戸森		關岡		川方津馬城積		石	第一		
一	一	三	一	二	一	二	四	三	二	
一	一			六	二	一	三		一	一
				九	一	一	二	四	一	一
二	一	三	一	二	二	一	七	〇	三	二

卒業生

(五十音順)

氏名ノ上ノ東法トアルハ東京帝國大學
法學部ニ入學シタル者以下之ニ準ス

大正十二年三月卒業

文科甲類

(五十三名)

東	東	東	東	東	東	東	東
法	法	法	法	經	法	法	法
上	岩	猪	糸	和	石	青	足
江	田	股	賀	泉	崎	木	立
洲	誠	英	篤	英	一	秀	俐
由		夫		雄		夫	一郎
文							
沖	愛	宮	山	神	東	栃	千
繩	知	城	梨	奈	京	木	葉
				川			
東	東	東	京	東	東	東	東
文	法	法	法	法	法	法	法
大	大	小	小	江	江	内	内
内	泉	川	川	戶	藤	田	田
定	不	武	榮	英	誠	雄	信
	二	夫	一	雄	一	一	節
茨	東	千	長	茨	靜	茨	山
城	京	葉	野	城	岡	城	形

東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	京	東
文	法	法	法	文	法	經	法	經	文	法	經
鈴	鈴	須	柴	重	阪	佐	佐	小	木	川	大
木	木	賀	沼	信	田	藤	藤	山	田	島	森
秀	直	秀	直	饒	純	彰	彰	晴	徹	涉	吉
三	人	雄	直	栽	雄	三	三		郎		盛
東	福	東	茨	鹿	神	長	栃	神	宮	岡	島
京	島	京	城	兒	奈	野	木	奈	城	山	根
				島	川			川			
東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東
經	法	法	經	法	文	經	法	法	法	文	文
林	根	西	西	成	德	唐	辻	竹	瀧	高	田
	本	川	川	瀨	宿	木	利	村	澤	橋	部
	康	武	正	透	太	憲	信	寅	太	伊	信
			脩		重	吉		三	助	元	保
茨	茨	茨	栃	東	茨	長	福	靜	長	千	東
城	城	城	木	京	城	野	井	岡	野	葉	京

東工	蘆川正信	理科甲類	東法	廣部忠彥	東法	長谷川信	千醫	中島元德	東文	長坂勝一	東法	土屋千春	東文	千葉征露	東經	瀧澤俊郎	東文	高橋德樹	東北法文	瀨之口虎男	東法	鈴木長
	茨城			千葉		青森		群馬		東京		福岡		神奈川		長野		福島		鹿兒島		茨城
東工	石井鈞三	(二十七名)	東法	渡邊周	千醫	吉原真	東法	山中舜次	東文	山下清	東文	山口米丸	東經	山崎昂	東法	山口米丸	東經	宮本起夫	東法	宮崎俊夫	東文	松井史亨
	茨城			東京		茨城		茨城		北海道		千葉		千葉		神奈川		千葉		茨城		静岡

東文	大槻春彦	東法	大津正次	東經	伊藤進	東法	秋永英七	東法	安島三郎	文科乙類	東法	松本秀彦	東經	松崎靜男	東法	間野延太郎	東文	福田稔	東經	平野博	東經	一柳綠	
	東京		茨城		千葉		茨城		茨城				福井		茨城		岡山		茨城		栃木		兵庫
東法	勝田二郎	東經	榑原虎彦	東經	産間策郎	東法	小泉彌六	東法	狩谷幸知	(二十九名)	東經	渡邊虎吉	東經	吉久保恆之助	京法	矢口順道	東經	持丸丈夫	東經	黛虎造	東經	黛虎造	
	兵庫		神奈川		千葉		千葉		茨城				秋田		茨城		神奈川		神奈川		東京		東京

東工	東工	東工	東工	東工	東工	東工	東農	東文	東工	東工	東工	東工
石塚晴美	大瀧讓	岡嚴一	窪田敏夫	小平孝雄	五來達	佐久間友二	須藤利一	袖山喜久雄	武田悅次郎	塚原亮	照井達夫	仲篤司
茨城	新潟	栃木	東京	東京	茨城	千葉	埼玉	茨城	神奈川	栃木	青森	埼玉
東理	東工	東理	東工	東工	東工	九工	東農	東工	東工	東北工	京理	
沼尻源一郎	平山嵩	細井淙	堀越九一	松葉盛重	宮地武夫	本山虎三郎	柳田貫一郎	山口敏宗	山口葭江	橫須賀善司	渡邊一郎	
茨城	東京	東京	茨城	埼玉	東京	長崎	栃木	茨城	東京	茨城	神奈川	

京醫	東農	東醫	東文	東醫	東醫	東醫	東醫	東醫	東醫	東醫	東醫	東醫	東醫	東醫
宇野留吉	川井實	蒲生義男	三枝義夫	佐野龍雄	島田正憲	謝花昇清	新藤六郎							
茨城	東京	東京	茨城	福井	栃木	沖繩	群馬							
東醫	東醫	東醫	東醫	京醫	東醫	東醫	東醫	東醫	東醫	東醫	東醫	東醫	東醫	東醫
諏訪敬三郎	鈴木重一	田澤信五郎	田中久	西郡彦嗣	服部鐵雄	福島正	松井三郎							
千葉	茨城	茨城	群馬	千葉	東京	群馬	山口							

(十六名)

(六十七名)

大正十三年三月卒業

理科乙類

文科甲類

東	東	東	東	東	千	東	東	東	東	東	東
法	文	經	文	經	醫	經	法	經	文	文	法
高橋一郎	高崎光久	田口茂雄	鈴木良一	清水二郎	坂本久雄	酒井義夫	齋藤長治	齋藤香一	佐藤正一	佐藤正一	鯉淵次夫
茨城	茨城	埼玉	千葉	東京	茨城	東京	東京	新潟	神奈川	茨城	茨城

東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東
法	文	經	經	經	法	文	經	法	經	經	法
濱野一雄	長谷川知之助	長谷川恭三	橋爪恭一	萩原重雄	西村程作	中山好一	中野四郎	中島道雄	長澤通明	外池重輔	津田宣彦
兵庫	山梨	東京	三重	山梨	山口	茨城	千葉	熊本	静岡	茨城	山口

東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東
法	法	經	文	法	法	法	法	法	法	法	法
梅本健男	内田仙次	鶴澤司	上野恆彌	岩田吉博	岩田一	祝廷三郎	磯村茂	伊澤庚子郎	天野宗一	朝生要人	秋山準
奈良	栃木	東京	茨城	神奈川	茨城	鹿兒島	東京	栃木	東京	千葉	茨城

東	京	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東
經	文	法	法	文	法	經	法	文	文	法	法
小村靖吉	小松崎寅雄	小林衛	久保田敏	菊池安郎	河田義郎	川崎千春	川口皓三郎	上加世田成法	改野五郎	大谷政雄	大竹寶
神奈川	茨城	東京	千葉	福島	埼玉	東京	千葉	東京	兵庫	茨城	栃木

東 法	東 法	東 法	東 文	京 經	東 文	京 法	東 文	京 經	京 文	東 法	東 文	
土 屋 一 民	高 橋 陸 奧 雄	高 橋 晃	庄 田 順 一	澁 谷 準 藏	笹 島 政 吉	佐 伯 義 明	木 村 誠	木 倉 和 一 郎	鎌 田 治	岡 部 英 四 郎	岡 部 重 信	
千 葉	青 森	宮 城	東 京	神 奈 川	茨 城	富 山	福 岡	千 葉	千 葉	栃 木	茨 城	神 奈 川
東 文	東 文	京 文	東 法	千 醫	東 法	東 文		東 經	東 經	東 法	東 文	京 經
湯 原 直	山 田 憲 太 郎	山 田 郁 夫	黛 克 巳	松 井 牧 次	前 澤 秀 榮	堀 内 熊 男	林 房 吉	長 谷 川 則 文	野 手 克 郎	成 田 源 四 郎	中 村 健 彦	寺 本 直 吉
山 梨	群 馬	千 葉	群 馬	靜 岡	福 岡	山 梨	千 葉	山 口	茨 城	東 京	東 京	石 川

東 法	東 法	東 法		東 文	東 文	東 法	東 法	東 文	東 法	東 文	東 文	東 法
薄 井 巳 亥	有 光 毅	青 木 四 郎		松 本 稔	牧 野 耐 一 郎	星 野 秀 雄	法 華 津 孝 太	藤 井 武 夫	平 野 禎 男	樋 口 重 雄	林 不 二 雄	
茨 城	高 知	東 京		兵 庫	岡 山	東 京	愛 媛	岐 阜	千 葉	東 京	福 島	
東 文	東 文	東 文			東 北 法 文	東 文		東 文	東 經	東 經	東 經	東 經
大 野 政 夫	尾 澤 良 彦	江 幡 寬 夫			渡 邊 重	若 松 宗 一 郎	和 田 壽 太 郎	山 田 一	矢 野 康 夫	宮 本 宣 一	宮 川 歐 太 郎	
千 葉	東 京	茨 城			千 葉	東 京	東 京	茨 城	東 京	茨 城	熊 本	

文科乙類

(三十六名)

東經 橫田憲喜 愛知
東文 若見一郎太 長崎

理科甲類

(二十七名)

東農	青木勝治	神奈川
東理	赤堀英三	群馬
東農	荒井元	茨城
京經	伊藤正二	北海道
京工	池澤保	兵庫
東工	池田金三	茨城
東農	石井坦	神奈川
東農	岩崎勝直	東京
東工	遠藤敏治	東京

東工	野手佛士	茨城
東工	羽賀正義	新潟
東工	檜山德次	茨城
東工	平野生三郎	東京
京文	藤田幸隆	北海道

理科乙類

(三十七名)

東北醫	猪狩正雄	福島
京農	井出七郎	静岡
東醫	井上與惣一	京都
千醫	飯野鎮雄	東京
九醫	石島勝郎	茨城
千醫	江尻伊三郎	福島

東工	古谷寅雄	東京
東工	松平日出男	東京
東工	松本厚	群馬
東工	山崎久一	栃木
東工	大山義年	茨城
東醫	大和田信道	茨城
東北醫	岡部次雄	静岡
東文	甲斐孝助	福島
東醫	木村康一	東京

東醫	九醫	東理	九醫	東醫	東醫	東醫	東醫	千醫	千醫	千醫	千醫	千醫
高垣清藏	蘇記之	島崎松雄	笹屋次雄	酒井博夫	河野寬	兒玉元一	小林一二三	小玉清	小泉秀雄	倉田庫司	菊池昇	木村玄洋
東京	支那	東京	長崎	千葉	栃木	長野	東京	新潟	神奈川	千葉	茨城	新潟
東農	東醫	東農	東北醫	千醫	東醫	東農	東農	東理	東農	東農	九醫	東醫
橫山不學	山口六郎	山形賀	安間國夫	森義雄	森英亮	三坂和英	深作英	原田五十吉	林正七	八田稠	野澤貞智	野澤貞智
東京	茨城	茨城	神奈川	東京	栃木	東京	茨城	茨城	茨城	福岡	新潟	新潟

大正十三年卒業生ノ狀況調

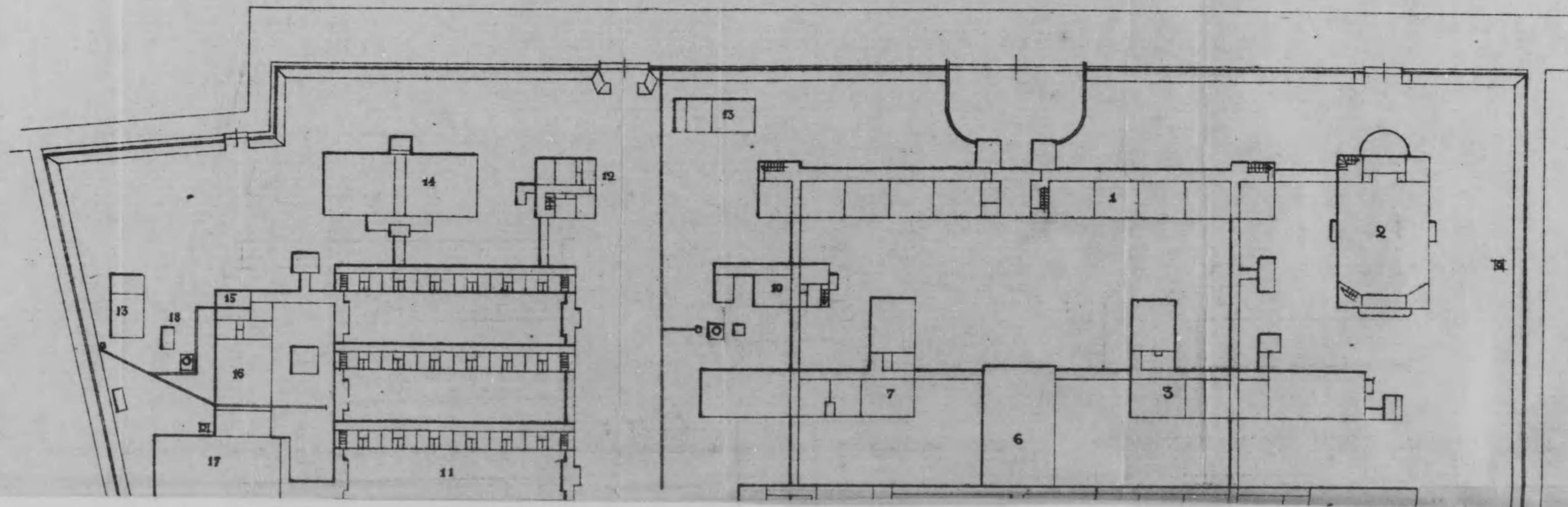
(大正十三年六月一日調)

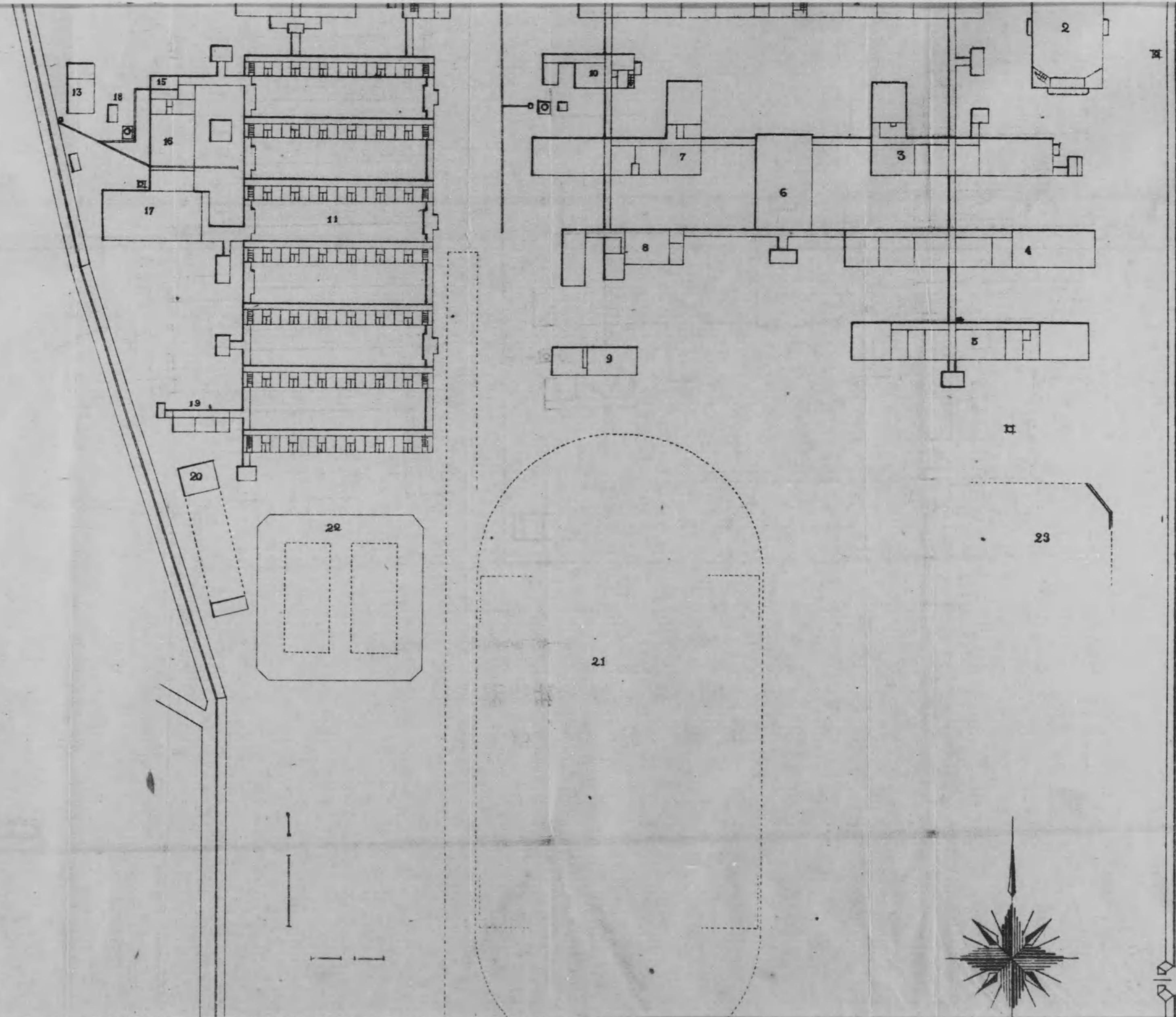
種別	文科卒業生		理科卒業生		合計
	甲類	乙類	甲類	乙類	
東京帝國大學法學部入學者	二四	一〇	三	一〇	三四
同 醫學部入學者	一七	一一	二	一	二九
同 工學部入學者	一七	一一	三	一	二九
同 文學部入學者	一七	一一	三	一	二九
同 理學部入學者	一七	一一	三	一	二九
同 農學部入學者	一七	一一	三	一	二九
同 經濟學部入學者	一七	一一	三	一	二九
京都帝國大學法學部入學者	二七	三	二〇	六	三〇
同 工學部入學者	二七	三	二〇	六	三〇
同 文學部入學者	二七	三	二〇	六	三〇
同 經濟學部入學者	二七	三	二〇	六	三〇
同 農學部入學者	二七	三	二〇	六	三〇
東北帝國大學醫學部入學者	一	三	一	一	六
同 農學部入學者	一	三	一	一	六
同 經濟學部入學者	一	三	一	一	六
同 文學部入學者	一	三	一	一	六
同 工學部入學者	一	三	一	一	六
合計	二四	一〇	三	一〇	三四

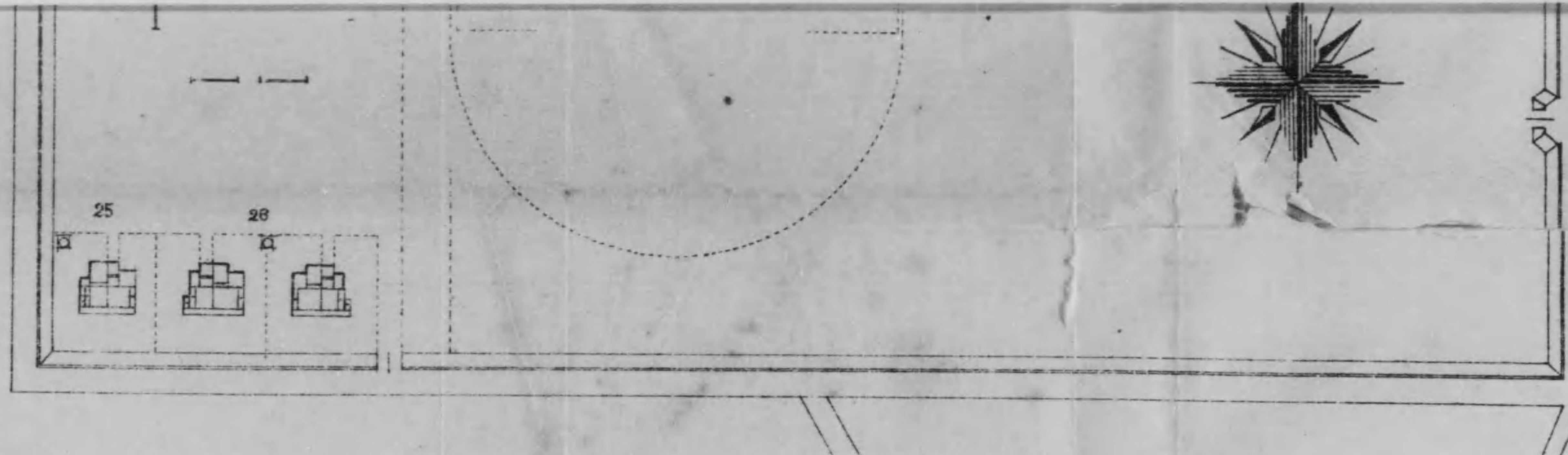
水戸高等學校 建物配置圖

本校敷地 二五五九四坪三合一勺

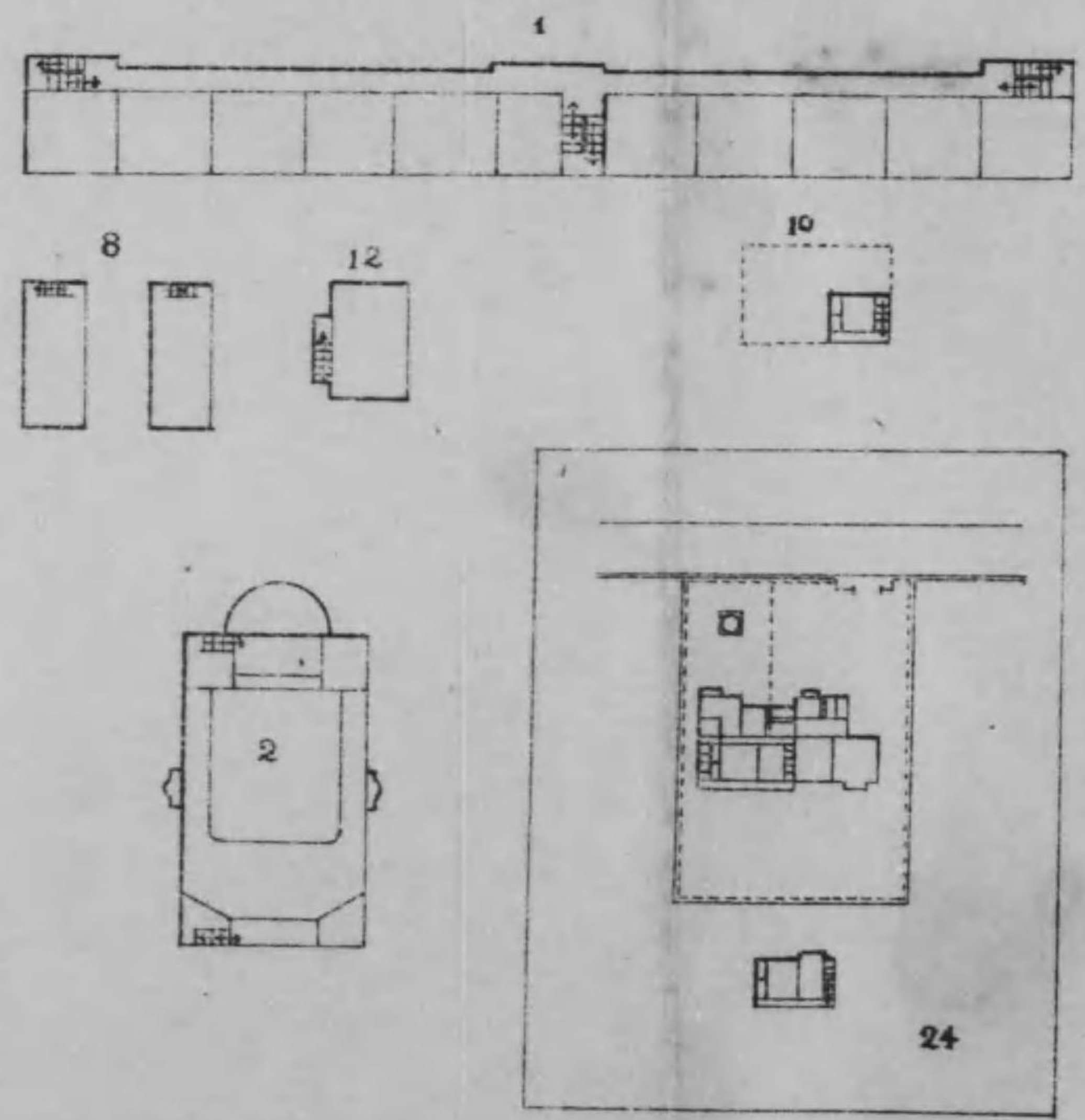
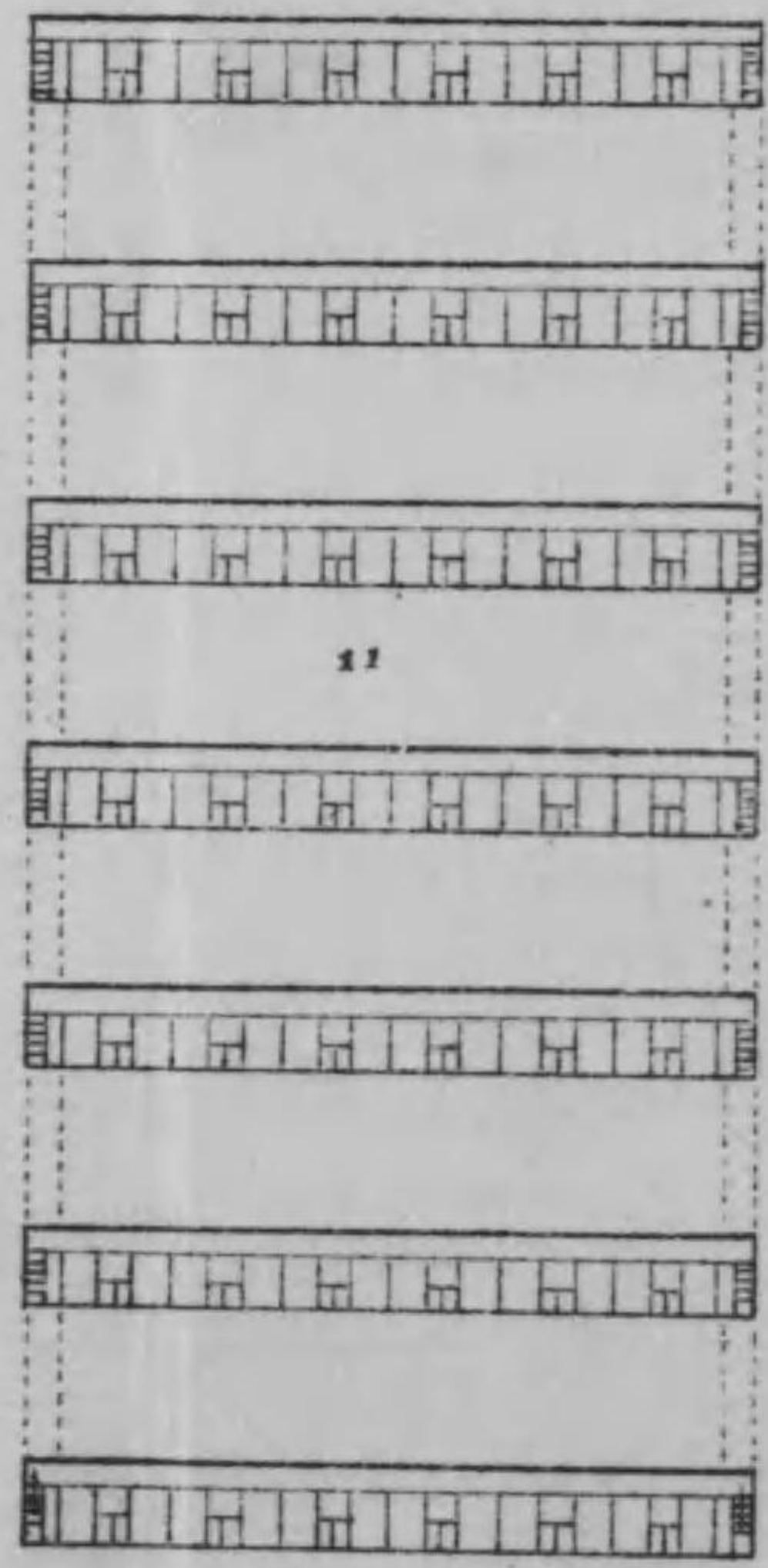
縮尺 一〇〇〇分ノ一







階上



凡例

- | | |
|------------|---------------|
| 1 本館 | 14 柔剣道場 |
| 2 講堂 | 15 浴室 |
| 3 化学教室 | 16 炊事場 |
| 4 画学教室 | 17 食堂 |
| 5 博物学教室 | 18 汽罐室 |
| 6 生徒控所 | 19 攝生室 |
| 7 物理学教室 | 20 弓術場 |
| 8 圖書館 | 21 トラック及フィールド |
| 9 銃器室 | 22 テニスコート |
| 10 電気室及小使室 | 23 野球球場 |
| 11 寄宿舎 | 24 校長官舎 |
| 12 訓務課分室 | 25 舎監官舎 |
| 13 物置 | 26 判任官官舎 |

一 陸上競技部

一 旅行部

一 相撲部

一 相撲部

一 野球場部

一 辯論會部

一 會誌部

一 水泳部

一 蹴球部

一 蹴球部

一 副會長

一 部長

一 各部

一 特別會員

中ヨリ會長之ヲ委囑ス

一 幹事

二名(文科及理科各一名)

通常會員ノ互選シタル者ニ對シ會

長之ヲ委囑ス

得シ他ノ役員ヲ兼ヌルコトヲ得ス

一 委員

各部若干名

各部員ノ互選ニ基キ當該部長ノ推薦シタル者ニ

一 學級委員

各學級一名

各學級會員ノ互選シタル者ニ對シ會長之ヲ委囑ス

一 書記

一名

本校職員中ヨリ會長之ヲ委囑ス

一 主任

計一名

本校職員中ヨリ會長之ヲ委囑ス

第六條

本會役員ノ任務ハ左ノ如シ

一 會長

ハ會務ヲ總攬ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ庶務及會計ヲ管理ス

一 副會長

ハ會長ヲ輔佐シ庶務及會計ヲ管理ス

部長ハ當該部ノ事務ヲ管理ス

一 部長

ハ當該部ノ事務ヲ管理ス

一 幹事ハ會務ヲ分掌ス

一 委員ハ當該部ノ常務ヲ處理ス

一 學級委員ハ各學級ニ關スル事務ヲ取扱フ

一 書記ハ庶務ニ關スル事務ヲ處理ス

一 主計ハ會計ニ關スル事務ヲ處理ス

第七條 幹事及ヒ委員ノ任期ハ毎年一月一日ヨリ十二月末日マテトシ毎年十一月上旬ヲ以テ改選ス

一 但シ再選ノ場合ハ事情ニ依リ辭スル事ヲ得

學級委員ハ毎年四月之ヲ改選ス

但シ第一學年ニ於ケル學級委員選舉ハ五月ニ於テ之ヲ行フモノトス

第八條 會長ハ必要ニ應ジテ役員會ヲ開ク

役員會ハ左ノ役員ヲ以テ之ヲ組織ス

會長、副會長、部長、幹事、委員(若干名)學級委員(若干名)書記、主計

但委員及學級委員ノ員數ハ役員會ノ都度會長之ヲ定ム

第九條 本會ノ會費ヲ左ノ如ク定ム

一 通常會員ハ入會金參圓トシ第一學期授業料納付期日ニ納ムルモノトス

一 通常會員ノ會費ハ金九圓トシ第一學期金五圓第二學期金四圓ヲ授業料納付期日ニ納ムルモノトス

一 贊助會員ノ入會金ハ金貳圓トシ入會ト同時ニ之ヲ納ムルモノトス

一 特別會員ハ一定ノ金額ヲ齎出スルモノトス

但現通常會員ニ對スル會費徵收ノ件ハ更ニ新役員會ノ協議ヲ經テ定ムルモ

第十條 本會ノ會計年度ハ毎年三月一日ニ始マリ翌年二月末日ニ終ル

第十一條 本會ノ豫算決定法左ノ如シ

豫算案ハ各部ヨリ提出シタル原案ニ基キ幹事之ヲ作成シ役員會ノ決議ヲ經テ會長之ヲ定ム

第十二條 各部委員ハ毎年度歳出入決算報告書ヲ調製シ毎年三月上旬マテニ各部長

ニ提出スルモノトス

各部長ハ檢印ノ上之ヲ主計ニ回付シ主計ハ審査ノ上副會長ヲ經テ之ヲ會長ニ報告

スルモノトス

第十三條 書記及主計ニハ役員會ノ決議ヲ經テ若干ノ報酬ヲナスモノトス

第十四條 本會會計規程ハ別ニ之ヲ定ム

附 則

本會々則ノ改正ハ役員會出席役員三分ノ二以上ノ同意ヲ經ルヲ要ス

大正十二年十一月一日ヨリ之ヲ實施ス

水戸高等學校校友會會計規程

第一條 現金並物品ノ出納ハ主計一切之ヲ掌ル

第二條 現金ハ信用アル銀行ノ預金トシテ之ヲ保管ス

第三條 物品ヲ購入又ハ修繕セントスルトキハ各部長委員ハ規定ノ帳簿ニ品目、概算

額等ヲ記シ部長ノ檢印ヲ經テ主計ニ回付シタル後購入又ハ修繕ノ手續ヲナスモノ

トス

第四條 主計ハ物品ヲ商人等ヨリ受領シタルトキハ各部ヨリ回付セラレタル帳簿ト

校合調査シテ支拂額ヲ記入シ捺印ノ上該帳簿ト共ニ物品ヲ各部長委員ニ引渡スモノ

トス

主計ハ其ノ際別ニ備フル豫算差引簿ニ必要ノ事項ヲ記入スルモノトス

第五條 副會長ハ時々豫算差引簿及支拂殘額ヲ檢閱ス

第六條 各部ニハ備品明細簿ヲ備ヘ各部長委員之ヲ保管ス

第七條 會長ハ必要ニ應シ特別會員若干名ニ會計並物品ニ關スル檢閲ヲ委囑ス

參 照

高等學校令(抄)

第一條 高等學校ハ男子ノ高等普通教育ヲ完成スルヲ以テ目的トシ特ニ國民道德ノ充實ニカムヘキモノトス

第七條 高等學校ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス

高等學校ハ高等科ノミヲ置クコトヲ得

第八條 高等學校高等科ヲ分チテ文科及理科トス

第十二條 高等學校高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校尋常科ヲ修了シタル者、中學校第四學年ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

第十三條 高等學校ノ生徒定數ハ高等科四百八十人以内尋常科三百二十人以内トシ

第七條第二項ノ高等學校ニ在リテハ專攻科ヲ除キ六百人以上トス

第十四條 高等學校ニ於テハ同科同學年ノ生徒ヲ以テ學級ヲ編制スヘシ

一學級ノ生徒定數ハ四十人以内トス

第十五條 高等學校ニ於テハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ學科目ノ種類ニ從ヒ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第十六條 高等學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル高等學校教員免許狀ヲ有スル者タルコトヲ要ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

高等學校教員免許狀ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條 高等學校ノ設備、編制、學科目及其ノ程度、教科書並生徒ノ入學退學及懲戒、授業料入學料等ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

高等學校規程(抄)

第一章 學科課程及教科書

第二節 高等科

第四條 高等科文科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、歷史、地理、哲學概説、心理及論理、法制及經濟、數學、自然科學、體操トス

高等科理科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、數學、物理、化學、植物及動物、礦物及地質、心理、法制及經濟、圖畫、體操トス

外國語ハ英語、獨語又ハ佛語トス

第二外國語ハ隨意科目トス

第五條 修身ハ教育ニ關スル勅語ノ趣旨ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ實踐躬行ヲ勸奨スルヲ以テ要旨トス

修身ハ道德ノ要領ヲ授ケ國家、社會、家族ニ對スル責務並人格修養ニ關シ必要ナル事項ヲ知ラシメ特ニ我國民道德ヲ會得シ其ノ實行ニ努メシムヘシ

第六條 國語及漢文ハ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表ハメノ能力ヲ得シメ

智徳ヲ啓發シ文學上ノ趣味ヲ養フヲ以テ要旨トス

國語及漢文ハ文科ニ在リテハ近世、近古及中古ノ國文ヲ授ケ進ミテ上古文ノ一般ニ及ホシ又普通ノ漢文ヲ講讀セシメ國語文法及國文學史ノ大要ヲ授ケ作文ニ習熟セシムヘシ

理科ニ在リテハ近世及近古ノ國文並普通ノ漢文ヲ授ケ作文ニ習熟セシムヘシ

第七條 外國語ハ英語、獨語又ハ佛語ヲ了解シ且之ニ依リテ思想ヲ表ハスノ能力ヲ得シメ兼テ智徳ノ増進ニ資スルヲ以テ要旨トス

外國語ハ發音、綴字、讀方、譯解、話方、作文、書取及文法ヲ授クヘシ

第八條 歴史ハ重要ナル古今ノ事蹟ヲ知ラシメ邦國ノ盛衰、文化ノ發達ヲ理會セシメ特ニ我國運發展ノ由來、國體ノ特異ナル所以ヲ明ニシ國民性格ノ養成ニ資スルヲ以テ要旨トス

歴史ハ日本歴史、東洋歴史及西洋歴史ヲ授クヘシ

第九條 地理ハ我國及重ナル世界各國ノ現状ヲ知ラシムルヲ以テ要旨トス

地理ハ我國及諸外國ノ政治、經濟等ニ關スル地理上ノ智識ヲ授クヘツ

第十條 哲學概説ハ思想界ニ關スル知識ヲ與ヘ哲學ノ概念ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

哲學概説ハ東洋及西洋ノ哲學、宗教等ニ就キテ其ノ大要ヲ授クヘシ

第十一條 心理及論理ハ心意ニ關スル知識ヲ得シメ思考ヲ鍛鍊セシムルヲ以テ要旨トス

心理及論理ハ各種ノ精神作用、思考ノ原則及其ノ方法ノ概要ヲ授クヘシ

第十二條 數學ハ數理ヲ會得セシメ計算應用ニ熟セシメ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

數學ハ文科ニ在リテハ數學諸論ノ大要ヲ授ケ、理科ニ在リテハ代數、立體幾何、三角法、初等解析幾何、初等微分積分及初等力學ヲ授クヘシ

第十三條 自然科學ハ天然物及自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理解セシ

ムルヲ以テ要旨トス

自然科學ハ生物、地質、物理、化學等ニ關スル主要ナル事項ヲ授クヘシ

第十四條 物理、化學ハ自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理會セシメ之カ應用ヲ示シ兼テ觀察工夫ノ力ヲ養フヲ以テ要旨トス

物理ハ力學、物性、音響、熱、光、磁氣、電氣ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

化學ハ無機化學及有機化學ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十五條 植物及動物、礦物及地質ハ天然物ニ關スル知識ヲ與ヘ之カ應用ヲ示シ兼テ觀察ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

植物及動物ハ生物ノ形態、生理、分類、進化ニ關スル知識ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

礦物及地質ハ礦物ノ產狀、性質、用途、地球ノ構成及其ノ變遷ニ關スル知識ヲ授ケ又便宜主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十六條 法制及經濟ハ法制及經濟ニ關スル事項ニ就キ國民生活ニ必要ナル知識ヲ

得シムルヲ以テ要旨トス
 法制及經濟ハ帝國憲法ノ大要及日常ノ生活ニ適切ナル法制上及經濟財政上ノ事項ヲ授クヘシ

第十七條 圖畫ハ形體ヲ正確且自由ニ畫クノ能力ヲ得シメ意匠ヲ練リ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス
 圖畫ハ自在畫、平面幾何畫、立體幾何畫ヲ授クヘシ

第十八條 體操ハ身體ヲ健全ニシ動作ヲ敏活ナラシメ剛健ノ精神ト規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣トヲ養フヲ以テ要旨トス
 體操ハ教練及體操ヲ授クヘシ又劍道及柔道ヲ加フルコトヲ得

第十九條 文科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
國語及漢文	六	五	五
修身	一	一	一

學科	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語	九	八	八
第二外國語	(四)	(四)	(四)
歷史	三	五	四
地理	二		
哲學概說			三
心理及論理		二	二
法制及經濟		二	二
數學	三		
自然科學	二	三	
體操	三	三	三
計	(二九) (三三)	(二九) (三三)	(二八) (三二)

第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語	一一	一〇	一〇
第二外國語	(三)	(三)	(三)
計	(三一) (三四)	(三一) (三四)	(三〇) (三三)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

第二十條 理科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
國語及漢文	四	二	六
第一外國語	八	六	六
第二外國語	(四)	(四)	(四)
數學	四	四	四
物理		三	五
講義三 實驗二			

學科目	第一學年	第二學年	第三學年
化學		三	五
植物及動物	二	二	四
礦物及地質	二		
心理		二	
法制及經濟	二		
圖畫	二	二	(二)
體操	三	三	三
計	(二八) (三二)	(二八) (三二)	(二八) (三二)

第三學年ノ數學(二)及圖畫(二)ト第三學年ノ植物及動物(講義二實驗二)トハ生徒ヲシテ其ノ一ヲ選擇セシムルモノトス
第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

第二外國語	(三)	(三)	(三)
計	三〇 (三三)	三一 (三四)	三一 (三四)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

第四節 教授上ノ注意

第二十二條 高等學校ニ於テハ高等學校令第一條ノ趣旨ニ依リ生徒ヲ教育シ殊ニ國民道德ノ充實ニ關聯セル事項ハ何レノ學科目ニ於テモ常ニ留意シテ教授センコトヲ要ス

各學科目ノ教授ハ其ノ目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相聯絡シテ補益センコトヲ要ス

第五節 教科書

第二十三條 高等學校ノ教科書ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ムヘシ但シ文部大臣ノ檢定ヲ經タル中學校教科書ヲ尋常科ノ教科書トシテ使用スル場合ニ於テ

ハ認可ヲ要セス

第二章 學年、教授日數及式日

第二十四條 學年ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテトス但シ九月一日ヨリ翌年八月三十一日マテト爲スコトヲ得

第二十五條 教授日數ハ尋常科ニ在リテハ每學年二百二十日以上高等科ニ在リテハ每學年二百日以上專攻科ニ在リテハ百九十日以上トス但シ次條ノ場合及特別ノ事情ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

試驗及修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第二十六條 傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ臨時休業ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 紀元節、天長節祝日及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第三章 編 制

第二十八條 高等科ニ於テハ國語及漢文、外國語、數學ヲ教授スル場合ヲ除ク外文
部大臣ノ認可ヲ受ケ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第四章 設 備

第三十一條 高等學校ニ於テハ校地、校舍、體操場及校具ヲ備フヘシ

第三十二條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ且道德上及衛生上害ナキ所タ
ルヘシ

第三十三條 校舍ニハ教室、事務室其ノ他必要ナル實驗室、圖書室、器械室、標本
室等ヲ備フヘシ

校舍ハ教授上、管理上及衛生上適當ニシテ堅牢ナルコトヲ要ス

第三十四條 校具ハ教授上必要ナル圖書、機械、器具、標本、模型等トス

第三十五條 高等學校ニ於テハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外左ノ表簿ヲ備フヘシ

- 一 學則 日課表及教科用圖書配當表
- 二 職員ノ名簿及履歷書並擔任學科目及時間表

三 生徒學籍簿、出席簿、身體檢查ニ關スル表簿及入營延期又ハ徵兵猶豫ニ關ス
ル書類

四 試驗ノ問題、答案及成績表

五 資産原簿、出納簿、經費豫算、決算ニ關スル帳簿及圖書、機械、器具、標本、
模型ノ目錄

生徒學籍簿ニハ生徒ノ氏名、族籍、居所、生年月日、入學前ノ學歷、入學轉學退
學ノ年月日及其ノ學年、卒業ノ年月日、入學試驗ノ有無、轉學退學ノ事由、徵兵
事故、保證人ノ氏名及居所等ヲ記載スヘシ

第六章 入學、在學、休學、退學及懲戒

第三十八條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内トス

第四十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ高等科ノ入學ニ關シ中學校第四學年ヲ修
了シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム

- 一 他ノ高等學校尋常科ヲ修了シタル者

- 二 高等學校高等科入學資格試験ニ合格シタル者
- 三 専門學校入學者檢定規定ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者
- 四 文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ指定シタル者
- 五 文部大臣ニ於テ一般ノ専門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

前項ノ資格試験ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第四十四條 當該高等學校尋常科ヲ修了シタル者以外ノ入學志願者ノ數高等科各科ニ入學セシムヘキ人員ニ超過スルトキハ中學校第四學年修了ノ程度ニ依ル試験ニ依リテ入學者ヲ選抜スヘシ但シ無試験檢定ヲ行ヒテ入學者ヲ定ムルコトヲ得

第四十五條 高等學校ニ於テハ入學志願者ニ對シテ體格検査ヲ行ヒ之ニ合格シタル者ニ限リ入學セシムヘシ但シ當該學校ニ於テ豫科ヨリ尋常科ニ進入シ又ハ尋常科ヨリ高等科ニ進入スル者ニ關シテハ此限ニ在ラス

第四十六條 高等科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ第一學年ニ入學スル資格ヲ

有シ且前各學年ノ課程ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

前項入學者ノ學力ハ前各學年ノ程度ニ於テ其ノ各學科目ニ就キ試験ニ依リ之ヲ檢定スヘシ

第四十七條 高等學校生徒ニシテ退學シタル者退學シタル時ヨリ一年以内ニ於テ高等學校ニ入學ヲ志願シタル時ハ同一學年以下ノ學年ニ限リ入學ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ退學シタル高等學校ニ再入學ヲ志願シタル者ニ限リ試験ニ依ラサルコトヲ得

第四十八條 高等學校生徒ニシテ他ノ高等學校ニ轉學ヲ志望スル者アルトキハ關係學校長ノ協議ニ依リ之ヲ許可スルコトヲ得

第五十條 高等學校ニ於テ各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試験ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ但シ正當ノ事由アリテ試験ニ缺席シタル者ニ對シテハ平素ノ成績ノミヲ考查シテ之ヲ定ムルコトヲ得

試験ハ學校長ノ見込ニ依リ之ヲ行ハサルコトヲ得

第五十一條 學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ス

第五十二條 學校長ハ高等學校高等科ヲ卒業シタル者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ

第五十三條 學校長ハ正當ノ事由アリト認メタルトキハ生徒ノ休學ヲ許可スヘシ

第五十四條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三 引續キ一年以上缺席シタル者

四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者

五 出席常ナラサル者

第五十五條 生徒退學セントスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第五十六條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第八章 雜則

第五十八條 高等學校ノ學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ

- 一 學年、學期及休業日ニ關スル事項
- 二 學科課程、教授時數ニ關スル事項
- 三 課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項
- 四 生徒入學、退學、懲戒ニ關スル事項
- 五 授業料入學料等ニ關スル事項

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六條 文部省直轄諸學校官制(抄)

校 長

教 授

生徒監

助教授

書記

第七條 校長ハ勅任又ハ奏任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第八條 教授ハ勅任又ハ奏任トシ助教授ハ判任トス生徒ノ教育ヲ掌ル

第九條 生徒監ハ奏任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

生徒監ハ校長ノ指揮ヲ承ケ専ラ生徒ノ訓育ヲ掌ル

第十條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス

第十七條 專任教官中其ノ學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得サル場合ニ於テハ兼任教官ヲ置キ若クハ學校長ニ於テ特ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ囑託シ其ノ學科ノ授業ヲ擔任セシムルコトヲ得

文部省直轄諸學校長職務規程

第一條 校長ハ判任官ノ進退ヲ具狀シ及高等官ノ進退ニ付意見ヲ具ヘテ文部大臣ニ

稟申スルコトヲ得

第二條 校長事故アルトキハ文部大臣ノ許可ヲ經テ高等官ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

第三條 左ノ事項ハ校長之ヲ專行スヘシ但シ第六號及第八號ニ關シテハ處分後文部大臣ニ報告スヘシ

第一 教官ノ學科擔任及事務員ノ分課ヲ定ムルコト

第二 規則ノ施行上必要ナル細則ヲ設クルコト

第三 俸給月額八拾五圓以下ノ雇員ノ進退ニ關スルコト

第四 教官以下ノ内國各地出張ニ關スルコト

第五 教官以下ノ除服出仕請假ニ關スルコト

第六 講師ノ解囑及其ノ報酬減額ニ關スルコト

第七 經費中ノ目ヲ流用スルコト

第八 三日以内ノ臨時休業ヲ爲スコト

第四條 前條ニ掲ケタル事項ノ外交部大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ施行スヘシ

高等學校教員規程(抄)

第一條 高等學校高等科教員免許狀ハ本令ノ定ムル所ニ依リ教員檢定ニ合格シタル者ニ之ヲ授與ス

第二條 第九條第二號ニ該當スル者ニシテ高等學校高等科教員養成ニ關スル規程ニ依リ教員タルノ義務ヲ有スル者ハ教員檢定ニ合格シタル者ト看做ス
文部省外國留學生規程ニ依リ高等學校高等科教員タルノ義務ヲ有スル者亦同シ

第三條 第一條ノ免許狀及中學校教員免許狀ハ當該學科目ニ關シ高等學校尋常科教員免許狀タルノ效力ヲ有ス

第四條 教員檢定ハ受験者ノ學力、性行、身體ニ就キ之ヲ行フ

第五條 檢定ヲ爲スヘキ學科目左ノ如シ

修身、國語、漢文、英語、佛語、獨語、日本史及東洋史、西洋史、地理、哲學概説、心理及論理、法制及經濟、數學、物理、化學、植物、動物、地質及礦物、圖畫

前項ノ學科目ニ就キ試驗檢定ヲ行フ場合ニ於テ第九條第六號ノ受験者ニ對シテハ檢定ヲ受ケントスル學科目ニ併セ本人ノ選擇ニ依リ英語、佛語、獨語ノ中一科目ニ就キ其ノ學力ヲ試驗スルモノトス但シ本人カ英語、佛語又ハ獨語ニ付中學校教員免許狀ヲ有スルトキ又ハ檢定ヲ受ケントスル學科目カ英語、佛語、獨語ノ中一ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 試驗檢定ヲ行フ場合ニ於テハ受験者出願ノ學科目ノ試驗ニ附隨シ其ノ授業法ヲ試驗スルモノトス

第七條 試驗檢定ハ每年少クトモ一回之ヲ行ヒ無試驗檢定ハ隨時之ヲ行フ
試驗檢定ノ出願期限及試驗ヲ行フヘキ學科目ハ文部大臣之ヲ告示シ試驗施行ノ期日及試験ヲ行フヘキ場所ハ教員檢定委員會長之ヲ公告ス

第八條 檢定ヲ受ケントスル者ハ願書(第一號書式)ニ左ノ書類ヲ添ヘ試驗檢定ニ在リテハ住居地ノ地方廳ヲ經由シ無試驗檢定ニ在リテハ住居地ノ地方廳若ハ當該學校ヲ經由シ文部大臣ニ出願スヘシ

一 履歷書(第二號書式)及學業證書若ハ免許狀ノ寫

二 第九條第二號乃至第五號ニ該當スル者ニ在リテハ當該學校長ノ證明書(第三號書式)

三 醫師ノ身體檢查書(第四號書式)

地方長官又ハ當該學校長ハ本人ノ性行ニ就キ意見ヲ具申スルコトヲ要ス

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ試驗檢定ヲ受クルコトヲ得

一 學位ヲ有スル者

二 大學ヲ卒業シタル者又ハ大學ニ於テ試驗ニ合格シ學士ト稱スルコトヲ得ル者

三 高等師範學校ヲ卒業シタル者但シ修業年限二ケ年ノモノヲ除ク

四 專門學校本科又ハ神宮皇學館本科ヲ卒業シタル者

五 高等學校大學豫科又ハ學習院高等學科及元高等學科ヲ卒業シタル者

六 當該學科ニ關シ中學校教員免許狀ヲ有スル者

七 外國ニ於テ高等學校ニ準スヘキ學校ヲ卒業シタル者

八 外國ニ於テ大學若ハ之ニ準スヘキ學校ニ入り學位若ハ卒業證書ヲ有スル者

九 五年以上大學、大學豫科、高等學校專門學校又ハ之ニ準スヘキ學校ノ教員タ

リシ者

前項第九號專門學校ニ準スヘキ學校ハ文部大臣之ヲ指定ス

第十條 第九條第一號第二號及第九號ニ該當スル者高等師範學校專攻科又ハ東京高

等商業學校專攻部ヲ卒業シタル者及本邦ニ於テ高等學校若ハ之ニ準スヘキ學校ヲ

卒業シ又ハ外國ニ於テ高等學校ニ準スヘキ學校ヲ卒業シ更ニ外國ニ於テ大學若ハ

之ニ準スヘキ學校ニ入り學位若ハ卒業證書ヲ有スル者ハ文部大臣ノ適當ト認メタ

ル學科目ニ關シ無試驗檢定ヲ受クルコトヲ得

第十一條 不正ノ方法ニ依リ試驗ヲ受ケントシタル者又試驗ニ關スル規程ニ違背シ

タル者ハ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

檢定ニ合格シタル後前項ノ事實發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無効トス

第十二條 高等學校專攻科教員ニ付テハ免許狀ヲ要セス公立及私立ノ高等學校ニ於

ヲ専攻科教員ヲ採用セントスルトキハ擔任學科目、本人ノ履歷書及戶籍抄本ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 高等學校高等科ニ於テハ教員數ノ三分ノ一以內ヲ限り高等科教員免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得

第十四條 體操ニ關シテハ高等科教員免許狀ヲ要セス

第十五條 高等學校高等科ニ於テ體操ヲ擔任スル教員ハ第十三條ノ關係ニ付テハ高等科教員免許狀ヲ有スル者ト看做ス

第十六條 公立及私立ノ高等學校ニ於テ第十三條ノ規程ニ依リ高等科教員免許狀ヲ有セサル者ヲ教員ニ採用セントスルトキハ擔任學科目、本人ノ履歷書及戶籍抄本ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
前項ノ規程ハ體操ヲ擔任スル教員ノ採用ニ關シ之ヲ準用ス

第十七條 高等學校尋常科ニ於テハ教員數ノ三分ノ一以內ヲ限り第三條ノ教員免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ後三年間ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ第十三條ノ制限ヲ超エ高等科教員免許狀ヲ有セサル者ヲ教員ニ採用スルコトヲ得
本令施行前文部省直轄學校ノ勅任又ハ奏任ノ教員タリシ者ハ高等科教員免許狀ヲ有スル者ト看做ス

(書式ハ略ス)

官立高等學校高等科入學者選拔試驗規程

第一條 入學志願者ノ數當該高等學校生徒募集人員ニ超過シタルトキハ選拔試驗ヲ行フ

第二條 各高等學校ニ入學セシムヘキ生徒ノ概數、選拔試驗ニ關スル細目及出願ノ手續等ハ其ノ都度文部大臣之ヲ告示ス

第三條 選拔試驗ノ學科目ハ中學校第四學年マテノ必修學科目中ニ就キ之ヲ選定ス

但シ外國語ハ英語、獨語及佛語ノ中本人ヲシテ其ノ一ヲ選ハシム
前項ノ試験ハ中學校第四學年修了ノ程度ニ依ル

第四條 選拔試験ハ各高等學校同時ニ之ヲ行フ

第五條 入學志願者ハ其ノ入學後修業セントスル科及類ヲ指定スヘシ
指定スヘキ科及類ハ左ノ如シ

- 文科 甲類 英語ヲ第一外國語トスルモノ
- 文科 乙類 獨語ヲ第一外國語トスルモノ
- 文科 丙類 獨語ヲ第一外國語トスルモノ
- 理科 甲類 英語ヲ第一外國語トスルモノ
- 理科 乙類 獨語ヲ第一外國語トスルモノ
- 理科 丙類 佛語ヲ第一外國語トスルモノ

選拔試験ノ外國語ニ英語ヲ選フ者ハ志望ノ類二個以上(同一科内ノ類ニ限ル)ヲ併
セ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ志望ノ類ノ順位ヲ定ムヘシ獨語ヲ選フ

者ノ志望シ得ル類ハ文科乙類又ハ理科乙類ニ限リ佛語ヲ選フ者ノ志望シ得ル類ハ
文科丙類又ハ理科丙類ニ限ル

第六條 入學ヲ許可スヘキ者ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ定ム

- 一 各高等學校ニ於テ各科毎ニ其科ニ入學セシムヘキ人員ノ總數ト同數ノ人員ヲ
試験ノ成績順ニ依リ選出ス
- 二 前號ノ場合ニ於テ試験成績相同シキトキハ抽籤ニ依ル
- 三 前二號ニ依リ選出スル人員ニ就キ試験ノ成績順ニ依リ本人ノ指定スル第一ノ
志望類ニ配當ス
- 四 前號ニ依リ配當ノ結果本人ノ指定スル第一ノ志望類既ニ滿員トナリタル場合
ニ於テハ更ニ成績順ニ依リ本人ノ指定スル第二以下ノ志望類ニ配當ス
- 五 本人ノ指定スル類悉ク滿員トナリタルトキハ入學スルコトヲ得サルモノトス
前項ニ依リ配當ノ結果又ハ事故ノ爲入學者ニ缺員ヲ生シタルトキハ入學スルコト
ヲ得サリシ者ニ就キ更ニ前項ノ方法ニ依リ之ヲ補填ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

高等學校高等科入學資格試験規程

第一條 高等學校規定第四十三條ノ高等學校高等科入學資格試験ヲ受ケントスル者ハ年齢滿十六年以上ノ男子ニシテ身體健全、品行方正且現ニ中學校ニ在學セサル者タルヘシ

第二條 高等學校高等科入學資格試験ハ文部大臣ノ指定シタル中學校ニ於テ便宜之ヲ行フ

第三條 試験ハ中學校第四學年マテノ必須各學科目ニ就キ第四學年修了ノ程度ニ依リ之ヲ行フヘシ

第四條 中學校ニ於テハ高等學校高等科入學資格試験ニ合格シタル者ニ合格證書ヲ交付スヘシ

第五條 高等學校高等科入學資格試験ノ問題、答案及成績表ハ五年以上保存スヘシ

第六條 中學校ニ於テハ本令ノ試験ニ付試験手数料ヲ徴收スルコトヲ得

附則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

專門學校入學者檢定規程

第一條 專門學校ノ本科ニ入學セントスル者ニシテ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ヲ卒業セサル者ハ此規程ニ依リ檢定ヲ受クヘキモノトス

第二條 檢定ヲ受ケントスル者ハ左ノ資格ヲ具備スルコトヲ要ス

一 年齢男子ハ滿十七年以上女子ハ滿十六年以上ナルコト

二 身體健全ナルコト

三 品行方正ナルコト

四 現ニ中學校若ハ高等女學校ニ在學セサルコト

第三條 檢定ヲ分チテ試験檢定、無試験檢定ノ二トシ試験檢定ハ官立、公立ノ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ニ於テ便宜之ヲ行ヒ無試験檢定ハ當該專

門學校ニ於テ生徒入學ノ際之ヲ行フ

第四條 試驗檢定ノ學科目及其ノ程度ハ中學校若ハ修業年限四箇年ノ高等女學校ノ各學科目及其ノ卒業ノ程度トス但シ中學校若ハ高等女學校ニ於テ加除シ又ハ課セサル事ヲ得ル學科目ハ之ヲ省ク

第五條 官立、公立ノ中學校若ハ高等女學校ニ於テハ試驗檢定ニ合格シタル者ニハ試驗檢定合格證書ヲ交付スヘシ

第六條 官立、公立ノ中學校若ハ高等女學校ニ於テハ試驗檢定ノ問題、答案及成績表ハ五箇年以上保存スヘシ

第七條 官立、公立ノ中學校若ハ高等女學校ハ試驗檢定手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第八條 左ニ掲クル者ハ無試驗檢定ヲ受クルコトヲ得
一 文部大臣ニ於テ專門學校ノ入學ニ關シ中學校若ハ修業年限四箇年ノ高等女學校ノ卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定シタル者

學生生徒兒童身體檢査規程(抄)

第一條 學生生徒兒童身體檢査ハ毎年四月ニ於テ之ヲ施行スヘシ但シ止ムヲ得サル場合ハ五月ニ於テ之ヲ施行スルコトヲ得

監督官廳又ハ學校長ニ於テ必要ト認ムルトキ又ハ學校醫ニ於テ必要ト認メ學校長ノ同意ヲ得タルトキハ身體檢査ノ全部若ハ一部ヲ臨時施行スルコトヲ得

第二條 身體檢査ハ學校醫ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ

學校醫ナキ場合若ハ學校醫カ身體檢査ヲ行ヒ難キ事情アルトキハ他ノ醫師ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

學校職員又ハ他ノ適當ナルモノヲシテ身體檢査ノ一部ヲ助ケシムルコトヲ得

第三條 身體檢査ハ左ノ項目ニ就キ施行スヘシ

- 一、發育(身長、體重、胸圍)概評 二、榮養 三、脊柱 四、視力及屈折狀態
五、色神 六、眼疾 七、聽力 八、耳疾 九、齒牙 十、其ノ他ノ疾病
及異常 十一、監察ノ要否

前項目ノ外必要ト認メタル事項ハ特ニ檢査ヲ行フコトヲ得

色神検査ハ在學中一回行ヒタルトキハ其ノ後之ヲ省略スルコトヲ得

第四條 身體検査ハ左ノ各號ニ準據シテ施行スヘシ

- 一 検査ノ表記ニハ度ハ尺、衡ハ貫ヲ以テ單位トシ四捨五入法ヲ用ヒテ度ハ分、衡ハ忽ニ止ムヘシ
- 二 身長ヲ測定スルニハ足袋、靴等ヲ脱セシメ兩踵ヲ密接シテ直立シ兩上肢ヲ鉛直ニ垂レ頭部ヲ正位ニ保タシムヘシ
- 三 體量ハ著衣ノ儘測定シタルトキハ其ノ著衣ノ重量ヲ全量ヨリ除去スヘシ
- 四 胸圍ハ起立ノ姿勢ニ於テ兩上肢ヲ自然ニ垂レシメ乳頭ノ水平線ニ沿ヒ普通呼吸ノ終レル時ヲ測定スヘシ
- 五 發育ノ概評ハ別ニ定ムル標準ニ據リ甲、乙、丙ノ三ニ分ツモノトス
- 六 榮養ハ甲、乙、丙ニ分テ其ノ佳良ナルヲ甲トシ不良ナルヲ丙トシ其ノ中間ナルヲ乙トス
- 七 脊柱ハ正、左彎、右彎、前彎、後彎ヲ區別シ彎ニ就テハ凡テ其ノ凸側ニ依リ

テ前後左右ノ方向ヲ表示スルモノトス其ノ程度ハ之ヲ強弱ノ二種ニ區別シ自

巳ノ意思ニ依リ容易ニ矯正シ得ルモノヲ弱トシ然ラサルモノヲ強トス

八 視力ハ萬國式視力表ニ就キ兩眼ヲ各別ニ検査シ裸眼視力ヲ記入スヘシ 裸眼

視力一、〇以上ナルモノヲ正視眼トス

屈折機ノ異常アルモノハ其ノ種別ヲ記入スヘシ

弱視、失明等モ兩眼ニツキ各別ニ記入スヘシ

九 色神ハ其ノ異常アルモノニ就キ色盲及色弱ヲ區別スヘシ

十 聽力ハ其ノ障礙ノ有無ヲ検査スヘシ

十一 齒牙ハ齶齒ニ就キ検査スヘシ

十二 其ノ他ノ疾病及異常ハ検査ノ際發見シタルモノヲ記入スヘシ殊ニ結核性疾

患、腺病、肋膜炎、心臟疾患及機能障礙、貧血、脚氣、傳染性皮膚病、腺樣

增殖症及扁桃腺肥大、「ヘルニヤ」、神經衰弱、精神障礙ニ注意スヘシ

十三 監察ノ要否ハ検査ノ結果身心ノ健康狀態不良ニシテ學校衛生上特ニ繼續的

ニ監察ヲ要スト認ムル者ヲ「要」トシ記入スルモノトス

第五條 第一條第一項ノ身體検査ヲ施行シタルトキハ其ノ結果ヲ身體検査票ニ記入

シ本人同一種類ノ學校ニ在學中連年之ヲ繼續スヘシ但シ程度ヲ異ニスル學科部類
ヲ有スル學校ニ在リテハ其ノ部類毎ニ別票ヲ用フルモノトス

第一條第二項ノ臨時身體検査ノ際必要ト認ムル事項ヲ發見シタルトキハ之ヲ身體
検査票ノ裏面ニ記入スルモノトス繼續的監察ノ場合亦同シ

他校ヨリ轉入シタル者アルトキハ學校長ハ前ノ學校ヨリ其ノ身體検査票ノ交付ヲ
受ケ使用スヘシ身體検査票ハ學校長ニ於テ保管スヘシ

第六條 身體検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ其ノ結果ヲ本人若ハ其ノ保護者ニ示
スヘシ授業免除、就學猶豫、就學免除、休學、退學又ハ治療保護矯正等ヲ要スヘ

キモノアルトキハ本人若ハ其ノ保護者ニ對シテ特ニ注意ヲ與ヘ其ノ他必要ナル處
置ヲ取ルヘシ

第七條 第一條第一項ノ身體検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ身體検査統計表ヲ調

製シ其ノ年六月限り文部省直轄學校長ニ在リテハ文部大臣ニ報告スヘシ

附 則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年文部省令第四號ハ之ヲ廢止ス

(身體検査票及統計表様式略ス)

發育概評決定標準(抄)

學生生徒兒童及幼兒ノ發育概評ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ定ムルモノトス

一 七年ヨリ十八年マテノ男子ハ被檢者ノ身長、體重、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル

商ノ三者カ何レモ左記發育標準表ニ照シテ當該年齢ヨリ一年々長ノモノノ標準

以上ナルヲ甲トシ之ニ該當セスシテ一年々少ノモノノ標準以上ナルヲ乙トシ甲

乙何レニモ該當セサルモノヲ丙トス

二 十九年以上ノ男子ニアリテハ身長五尺三寸、體量十四貫三百匁、身長ヲ以テ體

重ヲ除シタル商カ二、七〇以上ナルヲ甲トシ之ニ該當セスシテ身長五尺一寸八

分體量十三貫匁身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カニ、五一以上ナルヲ乙トシ甲、乙何レニモ該當セサルヲ丙トス

發育概評決定標準表(抄) 十五年以下ヲ略ス

年 齡	身 體		身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商
	身 長	體 重	
十 六 年	五、〇四 ^尺	一一、八六〇	二、三五
十 七 年	五、一八	一二、八五〇	二、四八
十 八 年	五、二五	一三、五三〇	二、五八
十 九 年	五、二九	一四、〇二〇	二、六五

文部省直轄諸學校生徒ノ學校長ノ許可ナクシテ受ケタル他ノ直轄諸學校入學試験無効ニ關スル規程

文部省直轄諸學校生徒ニシテ學校長ノ許可ヲ受ケス他ノ文部省直轄諸學校ノ入學試験ヲ受ケタルトキハ其ノ入學試験ハ無効トス

終

